

# 京都市基本計画審議会第2回融合委員会 次第

日時：平成21年12月22日（火）  
午前9時30分～午前11時30分  
場所：国際交流会館特別会議室

## 1 開会

## 2 議事

### （1）未来像について

#### ①今後のスケジュールの検討

⇒全体スケジュールを検討

➤【資料1】共汗部会及び融合委員会の進め方（案）

#### ②未来の担い手・若者会議U35から若者提案の最終報告

#### ③未来像の検討

⇒第1回融合委員会WSの結果等を検討素材として、京都が目指すべき未来像を検討

➤【資料2】第1回融合委員会WSの結果のまとめ（キーワードによるグルーピング）一覧表及び個表（案）

➤【資料3】京都が目指すべき10年後の未来像の見取図（案）

### （2）今後の進め方について

⇒共汗部会及び融合委員会の今後の進め方について自由に意見交換

## 3 事務連絡

⇒次回日程の連絡

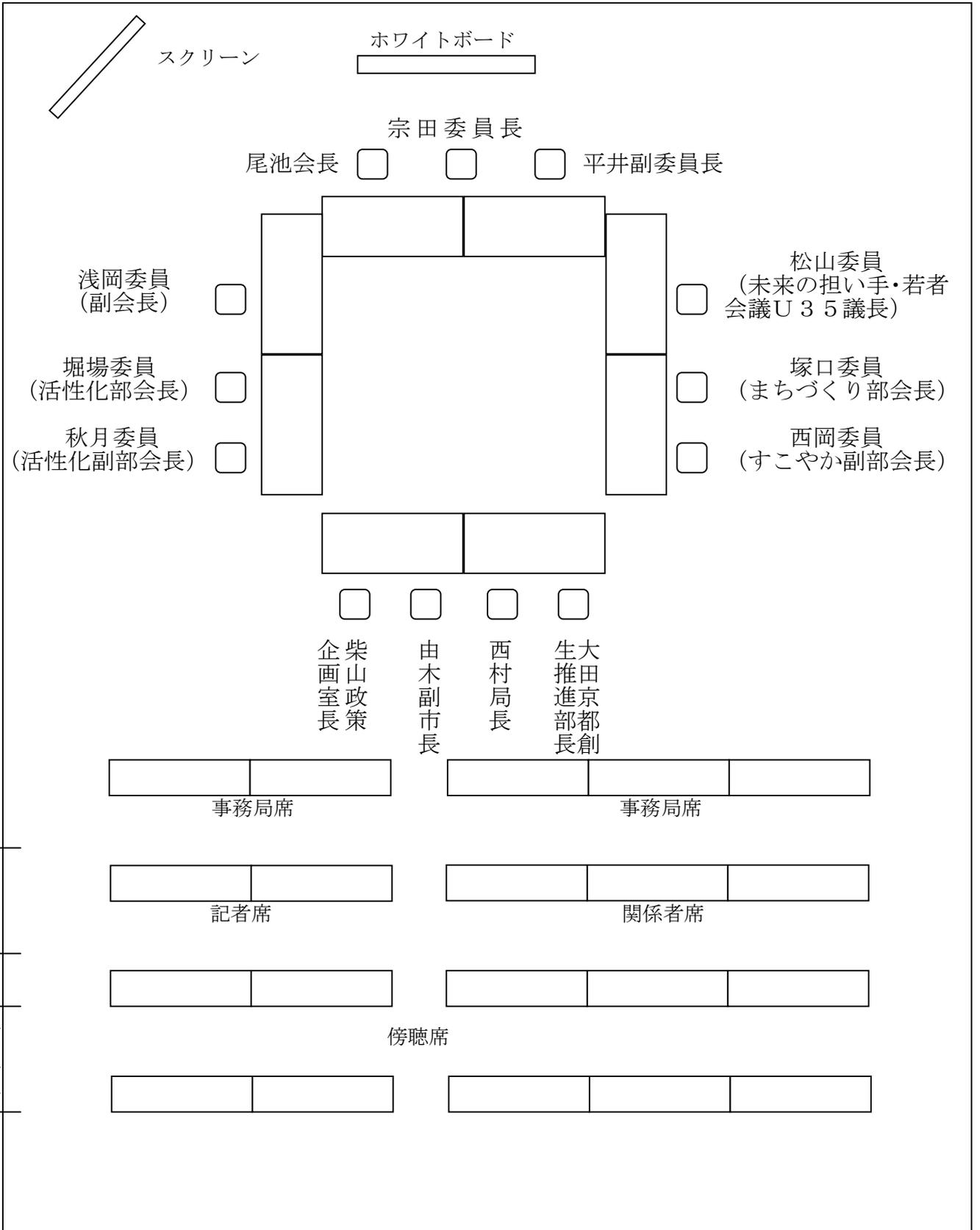
## 京都市基本計画審議会 融合委員会委員名簿

(50音順, 敬称略, ◎委員長 ○副委員長)

- ・ あきづき 秋月 けんご 謙吾 京都大学大学院公共政策連携研究部教授
- ・ あさおか 浅岡 みえ 美恵 NPO法人気候ネットワーク代表, 弁護士
- ・ いぬい 乾 こう 亨 立命館大学産業社会学部教授
- ・ うえむら 上村 たえこ 多恵子 詩人, 京南倉庫株式会社代表取締役社長
- ・ おいけ 尾池 かずお 和夫 財団法人国際高等研究所所長, 前京都大学総長
- ・ かじた 梶田 しんしょう 真章 本山獅子谷法然院貫主
- ・ たていし 立石 よしお 義雄 京都商工会議所会頭
- ・ つかぐち 塚口 ひろし 博司 立命館大学理工学部都市システム工学科教授
- ・ にかわ 新川 たつろう 達郎 未来の京都創造研究会座長, 同志社大学大学院総合政策科学研究科教授
- ・ にしおか 西岡 しょうこ 正子 佛教大学四条センター所長・教育学部教育学科教授
- ひらい 平井 せいいち 誠一 京都市未来まちづくり100人委員会代表幹事, 株式会社西利代表取締役専務
- ・ ほりば 堀場 あつし 厚 京都経済同友会特別幹事, 株式会社堀場製作所代表取締役会長兼社長
- ・ まつやま 松山 だいこう 大耕 未来の担い手・若者会議U35議長, 妙心寺塔頭・退蔵院副住職
- ◎ むねた 宗田 よしふみ 好史 次代の左京まちづくり会議座長, 京都府立大学大学院生命環境科学研究科(環境科学専攻)准教授
- ・ もり 森 よういち 洋一 社団法人京都府医師会会長

(計15名)

# 京都市基本計画審議会 第2回融合委員会 配席図



# 共汗部会及び融合委員会の進め方（案）

（■京都市基本計画審議会スケジュール（案））

		審議会		
		総会	融合委員会	共汗部会 (各部会共通)
平成21年度	10	第1回 (10/5)		
	11		第1回 (11/9) 未来像・重点戦略の洗い出し	第1回 (10/27~11/2) ・部会の役割等の確認 ・課題・意識の共有
	12		第2回 (12/22) 未来像の検討	第2回~第4回 (21年12月~22年3月) ・各回において政策分野ごとに ①「現状と課題」 ②「政策の基本方針」 ③「市民と行政の役割分担と共汗」 ④「10年後に目指す姿」を 検討
	1		第3回 (22年2月上旬) 未来像・重点戦略の骨子案の検討	
	2			
平成22年度	3			
	4		第4回 第1次案の検討 ・未来像・重点戦略の検討 ・部会で作成された分野別方針第1次案の調整	第5回 分野別方針第1次案の 検討 (担当分野を中心に)
	5		↓ 第1次案の決定 パブリック・コメント	
	6		第5回開催 ・第1次案の磨き上げ	第6回, 第7回開催 ・分野別方針の検討 (主として施策の検討)
	7			
	8		第2次案の検討	第2次案の検討 (担当分野を中心に)
	9		↓ 第2次案の決定 パブリックコメント	
	10	第2回 ・第2次案の審議		
	10	第3回 ・答申案の審議		
	11	答申		

(第1回融合委員会 宗田委員長説明資料から)

## 動かしがたい深刻な与条件

人口減少 少子高齢化 など

## この10年の喫緊の課題

低炭素社会 財政健全化  
(市民みんなの財政) など

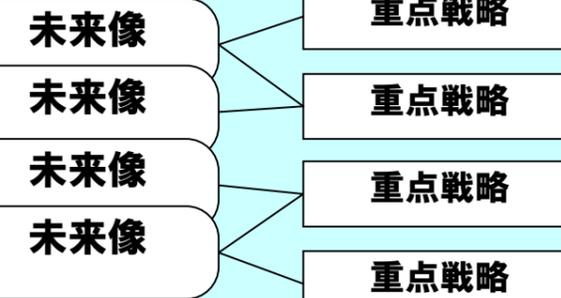
## 都市経営の理念

### 地域主権時代のモデル都市～京都発, 京都流～

- ・ 京都は「世界のなかの京都」という大きな視野の中で、その歴史的な知恵を生かし、都市文明のあるべき姿を率先して追求するという役割を国のみならず世界から期待されている。
- ・ 将来の都市の発展のために今求められるものは、地方分権・地域主権の取組を進展させ、市民、企業などの多様な参画主体と行政の役割分担と協働によって個性と魅力に溢れたまちづくりを進めることである。
- ・ 「共汗型計画」としての次期基本計画は、「地方分権」の流れの先にある市民本位の真の「地域主権」の確立を展望することが求められる。
- ・ 激動する時代であるからこそ、大ぐくりで未来像を共有しつつ、時代の変化に柔軟に判断、対応することが重要で、それを可能とする権限、財源、そして人間が地域に備わっていることが地域主権である。
- ・ 「京都らしさ、独自性」、「将来大きく育つコンセプト」、「制度や分野の枠にとらわれない」といった視点に基づく「地域主権時代のモデル都市」として、国内外に新たなモデルを提示し(京都発)、全国一律ではない京都が育んできた美意識や得意技によって豊かさを追求する(京都流)ことが望まれる。

## 未来像と重点戦略

自覚した市民とその行動を呼び起こす



## 分野別方針



## **第1回融合委員会WSの結果のまとめ（補足資料）**

カテゴリー	未来像のキーワード	頁
価値観	1 道徳や倫理観を大切にする	2
	2 京都への愛着や誇りを高める	4
	3 京都独自の生活様式を実践する	6
生活	4 住みやすいまちにする	8
	5 健康的に生きる	10
	6 共に支えあう社会にする	12
人づくり	7 子育てしやすいまちにする	14
	8 人材を育てる	16
地域社会	9 自律的な地域コミュニティを育む	18
都市基盤	10 地域の特性を活かしたコンパクトシティを目指す	22
	11 歴史的景観を守り、活かす	24
	12 財政の健全化を図る	26
	13 地下鉄など公共交通を優先する	28
産業	14 歴史と文化で新たな産業を生み出す	30
	15 人々の交流を通じて新たな雇用を創造する	34
	16 質の高い観光を提供する	36
市民力	17 文化を守り、伝え、育てる	38
	18 市民参加を向上する	40
	19 大学・若者の力を引き出す	42
環境	20 持続可能な低炭素のまちにする	44
	21 歩いて楽しむまちにする	48

## 【凡例】

### <第1回融合委員会ワークショップ結果>

- ・ 第1回融合委員会ワークショップで出された未来像，重点戦略を，21カテゴリーに分類
- ・ 重点戦略を「政策，施策レベル」及び「事業レベル」と思われるものに分類

（政策・・・市政の各分野における基本的な方針  
施策・・・政策を推進するための個々の具体的な方針  
事業・・・政策・施策を達成するための手段）

### <各種提言・発言>

#### （部会）

- ・ 各共汗部会における委員からの発言  
例：活①・・・第1回活性化部会における発言

#### （点検）

- ・ 京都市基本計画点検結果報告書（平成19年12月）におけるこれからの重点テーマと方策

#### （研究会）

- ・ 未来の京都創造研究会から提案された4つの未来像の案

#### （100人）

- ・ 京都市未来まちづくり100人委員会（第1期：平成20年9月～平成21年9月）の13議題チームからの提案

#### （マニフェスト）

- ・ 平成21年5月～7月に，35歳未満の若者を対象として募集した「私と京都のマニフェスト」の入賞6作品の提案

#### （若者提案）

- ・ 未来の担い手・若者会議U35からの提案

### <主な関連計画等>

- ・ 京都市において策定済又は現在審議されている関連計画等（策定中）・・・現在，旧計画を改定又は新計画を策定中

### <基礎データ>

- ・ 各種統計データ

<第1回融合委員会ワークショップ結果>

未来像	重点戦略（政策、施策）	重点戦略（事業）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他の生き物の暮らしに学ぶ京都</li> <li>・ 宗教都市（宗教の教えを日常生活に息づかせる）</li> <li>・ 京人（みやこびと）が営む</li> </ul>	<p><b>（学ぶ仕組み）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 人を不快にさせることを恥ずかしいと思える人材の育成</li> <li>➢ 人を信じる、人間の関わりを地域の中で培う</li> <li>➢ 人々の交流、学びの場、拠り所としての寺院</li> <li>➢ モラル・マナー向上戦略</li> <li>➢ 宗教の説法、哲学の講義に毎日気軽に触れられる</li> </ul> <p><b>（行動する仕組み）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 1%アクションの取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 教育の中で地域の歴史と人の勉強。行事と季節を大切に</li> <li>➢ 伝統芸能・伝統行事等の担い手育成、門掃き、水まき等の伝承</li> </ul>

## ＜各種提言・発言＞

項目	内容
部会	・ 京都は、京都らしいイメージで形ばかり「京都っぽく」なっているものの、大事な京都の部分がなくなってきており、本当の京都ということを見直していかなければならない（活①）

## &lt;第1回融合委員会ワークショップ結果&gt;

未来像	重点戦略（政策、施策）	重点戦略（事業）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「誇りの持てる社会」。</li> <li>・京都ブランドをはがしても誇りを持てるまち</li> <li>・京都に愛着や誇りを持てる市民であふれる</li> <li>・担い手がもう少し広がった京都</li> </ul>	<p><b>（情報発信）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢東京一極集中に対峙する情報発信で日本への貢献</li> <li>・マスメディア</li> <li>・観光客 5000 万人に直に伝える</li> </ul> <p><b>（ひとりづくり）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢教育の充実、「京都人の育成」</li> <li>➢グローバル人材育成戦略①</li> <li>・京都の文化や歴史的なバックグラウンドを理解し、地元の文化に誇りを持ち、責任ある社会人としての行動を心がけることのできる人材を養成する教育環境を初等・中等教育からスタートさせる。</li> <li>➢ファンクラブとサポーターづくり</li> <li>・「ファンクラブ」：金は出す、口は出さない</li> <li>・「サポーター」：金と汗と口を出す</li> </ul> <p><b>（さまざまなつながり）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢さまざまな地域をつなぐ （例）山間部，町中 （例）コリアンの歴史を活かす</li> <li>➢地域の発展に多様な人が関わる （例）留学生，観光客，住民</li> <li>➢多文化共生のまちづくりの推進</li> </ul>	<p><b>重点戦略（事業）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢文化財の保存・復興，歴史博物館の建設</li> <li>➢伝統文化の継承・復興。伝統芸能センターの整備</li> <li>➢歴史的景観の保全・整備</li> <li>➢祭礼の復興</li> <li>・“元”のやり方に戻す。例）祇園祭を2回に</li> <li>・祭日は小中学校を休みに</li> <li>・祭の参加について，大学の単位認定</li> <li>→コミュニティ再生，産業再生（伝統）観光につなげる</li> <li>➢京都のランドマーク・象徴になるものを作る（100年単位で）</li> <li>➢未来の京都を担う子ども，若者への郷土愛育成プログラム（京育）</li> </ul>

2 京都への愛着や誇りを高める

<各種提言・発言>

項目	内容
部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都の企業が本社を移さないのは、京都の環境や食、街並み、伝統など、<b>京都というバックグラウンドが、企業に人を惹きつける鍵</b>となっているからである (活①)</li> <li>・京都市の基本計画についても市民一人ひとりが自分のこととして捉えられていない。京都人が京都のことを知らないといわれるが、実は<b>京都に住む人が京都に興味がない</b>のではないか (活①)</li> <li>・京言葉など、<b>京都のことを小中学生に教える</b>ことが、地域としての京都の魅力につながる。学校の先生だけが教えるのではないユニークな教育が必要 (活①)</li> <li>・このまま便利になっていくと、<b>他の都市の垂流になり魅力がなくなってしまう</b>。進化しているが深化していない、浅くなっていると感じる。何でも便利にしていくということでは逆にそっぽを向かれるのではないか (活①)</li> </ul>

<主な関連計画等>

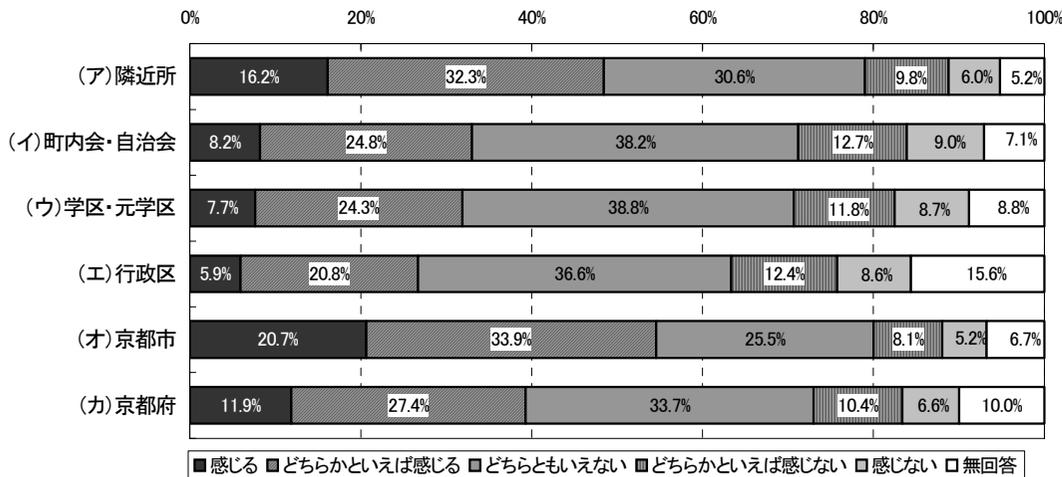
・京都文化芸術都市創生計画 (2007-2017)

●市民の居住地域に対する愛着や誇り

◆愛着や誇りを感じているのは「京都市」(55%)が最も多く、「隣近所」(49%)がこれに次ぐ

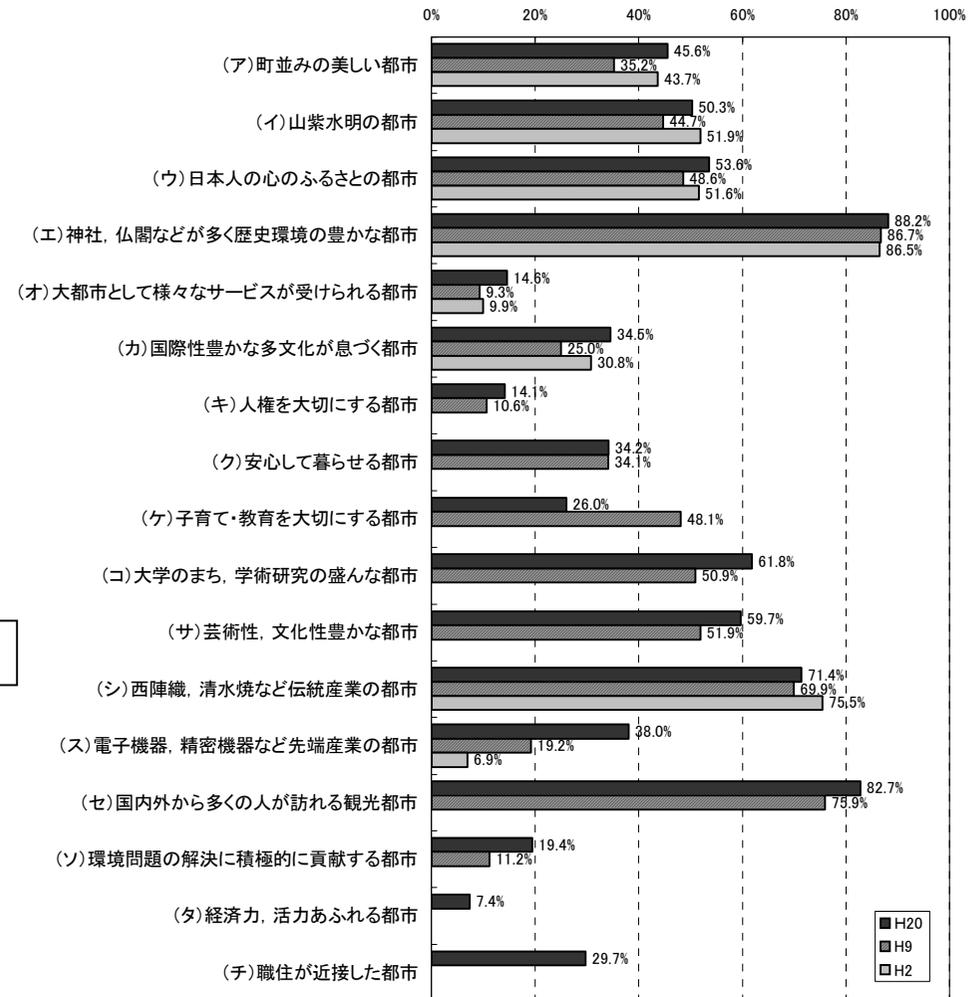
母数=4,828

問12 居住地域に対する愛着や誇り <全体>



●京都の現在のイメージは、「歴史環境の豊かな都市」、「観光都市」、「伝統産業の都市」

問17 京都の持つ都市のイメージ(現在) (「そう思う」) <全体>



注) 棒及び数値のない項目は、当該調査で選択肢が設けられていない。

<全体的傾向及び他調査との比較>

「歴史環境の豊かな都市」、「観光都市」、「伝統産業の都市」といった歴史を背景としたイメージは、7割以上の方が「そう思う」と答えており、京都の代表的なイメージといえる。

前回調査と比較すると、「町並みの美しい都市」「学術研究の盛んな都市」「先端産業の都市」の項目ではそれぞれ10ポイント、11ポイント、19ポイント高くなっている一方、「子育て・教育を大切にする都市」は22ポイント低下している。

<第1回融合委員会ワークショップ結果>

未来像	重点戦略（政策、施策）	重点戦略（事業）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「京都スタイル」な暮らし方を発信・実践する都市</li> <li>・京都の多様性を活かした町づくり</li> <li>・日本、そして世界の人々を魅了する歴史都市，創造都市(京都を訪れたい・京都で学びたい・京都で働きたい・京都で暮らしたい)</li> <li>・1200年が見えるまち(過去の遺産を生かす，歴史がみえる形に)</li> <li>・日本のふるさと京都を世界に発信</li> <li>・京都に愛着や誇りを持てる市民であふれる</li> <li>・世界文化自由都市ーやすらぎのある，華やぎのある，訪れて良し，住んで良しの京都</li> <li>・大人が元気に暮らせるまち，住み心地の高い街(文化度だけでなく)，伝統産業，伝統文化を大切にすまち(お金で買えない文化の蓄積)</li> <li>・京人(みやこびと)が営む</li> </ul>	<p><b>(京都らしさの深化)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢京都の伝統文化，伝統産業，伝統芸術をつなぐ体制をつくる</li> <li>➢徹底した「らしさ」の保存と開発</li> <li>➢宗教の説法，哲学の講義に毎日気軽に触れられる</li> <li>➢人々の交流，学びの場，拠り所としての寺院</li> <li>➢京都ならではの暮らし</li> </ul> <p><b>(京都らしさの展開)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢国家戦略としての京都創生へ</li> <li>➢東京一極集中に対峙する情報発信で日本への貢献</li> <li>・マスメディア</li> <li>・観光客5000万人に直に伝える</li> <li>➢環境と歴史・文化との融合</li> <li>・環境：先端技術，工夫された市民生活(ライフスタイル)</li> <li>・歴史：文化：京都ならではの第1級の特性</li> <li>・環境首都，文化首都</li> <li>➢寄付文化の醸成戦略</li> </ul> <p><b>(コミュニティ活性化)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ライフスタイルの変革を地域コミュニティの活発化によって実現する</li> <li>➢多様な京都の個性が元気なまち(大学，企業，宗教施設，文化)</li> <li>➢多文化共生，精神の自由(人権)⇔責任</li> </ul> <p><b>(ひとつづくり)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢教育の充実，「京都人の育成」</li> <li>➢グローバル人材育成戦略①</li> <li>・京都の文化や歴史的なバックグラウンドを理解し，地元の文化に誇りを持ち，責任ある社会人としての行動を心がけることのできる人材を養成する教育環境を初等・中等教育からスタートさせる。</li> <li>➢モラル・マナー向上戦略</li> </ul>	<p><b>重点戦略（事業）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢日本(世界)に誇れる京の食文化(京野菜，日本酒)</li> <li>➢伝統芸能・伝統行事等の担い手育成，門掃き，水まき等の伝承</li> <li>➢手入れをして一生使える道具の提唱</li> </ul> <p>➢伝統を支える人たちと若者のふれあい，交流の場の設置</p> <p>➢京都ならではの教育(特に初等教育)</p> <p>➢未来の京都を担う子ども，若者への郷土愛育成プログラム(京育)</p>

<主な関連計画等>

- ・「環境にやさしいライフスタイルを考える市民会議」提言（策定中）
- ・京（みやこ）・食育推進プラン（2006-2010）
- ・生涯学習新世紀プラン“新たな展開”（-2010）

<第1回融合委員会ワークショップ結果>

未来像	重点戦略（政策、施策）	重点戦略（事業）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・いつまでも住みつづけたいと思える地域づくり</li> <li>・ノーマライゼーション発展型まちづくり</li> <li>・人にやさしくぬくもりと活力のある都市</li> </ul>	<p><b>（住みやすい環境）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 居住，建築物…景観</li> <li>・ 公共建築物から更新，改修</li> <li>・ 風の通るまちづくり</li> <li>・ 緑のあるまちづくり</li> <li>➢ 人にやさしい歩きやすい街路整備</li> </ul> <p><b>（みんなで地域を担う）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 若者（学生）ちょう（超）兵制度→農林，環境，福祉などに従事する</li> <li>➢ 多様性の活きる社会を創るため，高齢者や障害者にも地域で担える役を持ってもらう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 交差点座標化</li> </ul>

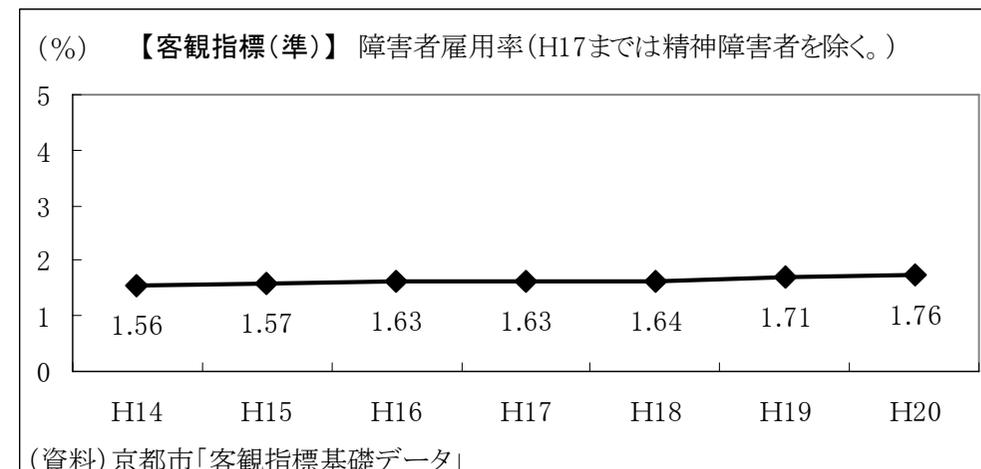
<各種提言・発言>

項目	内容
部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自助の拡大という言葉があるが、個人で解決できない問題が広がっている (す①)</li> <li>・障害者や認知症の方への詐欺など社会のせこさがあるなかで、京都から進んだ提言を (す①)</li> </ul>
点検	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと安心して健康に</li> </ul> ⇒ユニバーサルデザインと、社会参加の推進を

<策定済・策定中の関連計画>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・京（みやこ）・地域福祉推進指針</li> <li>・支えあうまち・京（みやこ）のほほえみプラン（京都市障害保健福祉推進計画 2008-2012）</li> <li>・第2期京都市障害福祉計画（-2010）</li> <li>・第4期京都市民長寿すこやかプラン（-2011）</li> </ul>
---

●障害者の法定雇用率（民間1.8%）が未達成



●3（身体・知的・精神）障害の全てが年々増加

障害者手帳交付数の推移

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
身体障害者	68,746	68,449	70,239	72,689	74,430	78,481	81,809
知的障害者	8,307	8,733	9,111	9,495	9,938	10,277	10,641
精神障害者	5,223	5,989	6,809	7,741	8,913	9,678	10,364

資料:京都市保健福祉局

## &lt;第1回融合委員会ワークショップ結果&gt;

未来像	重点戦略（政策、施策）	重点戦略（事業）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多子健康長寿都市「京都」</li> <li>・ 持続と健康のためのライフスタイル（LOHAS）をつくり出す都市</li> </ul>	<p>（健康を育む環境）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 自動車に不便なまち。自転車利用促進。歩くことで、生活習慣の変更</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ パブリックスペースの全面禁煙の条例化</li> <li>➢ 生活習慣病対策の充実</li> <li>➢ ごみの仕分けを地域住民のコミュニティビジネスにしていく</li> <li>・ 生ごみ処理も</li> </ul>

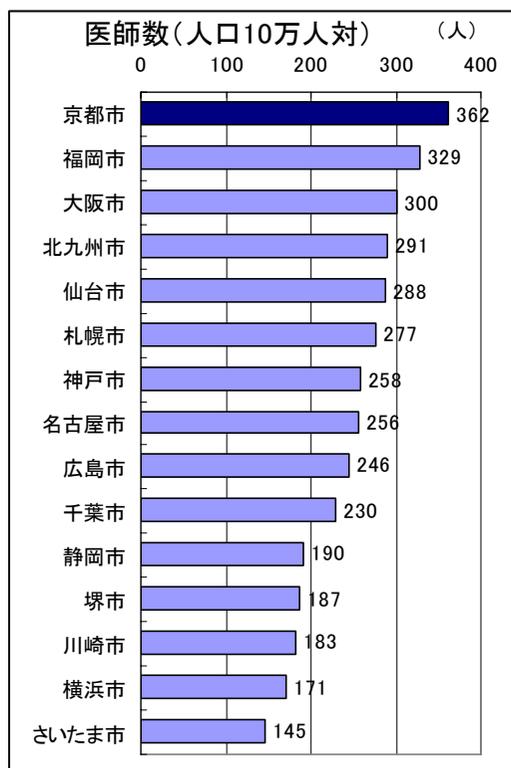
<各種提言・発言>

項目	内容
部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣病関連の医療費削減が課題 (す①)</li> <li>うつ病が非常に増えている (す①)</li> </ul>
点検	<ul style="list-style-type: none"> <li>もっと安心して健康に</li> </ul> ⇒食育と食の安全の推進, メタボリック対策をはじめ予防的措置を

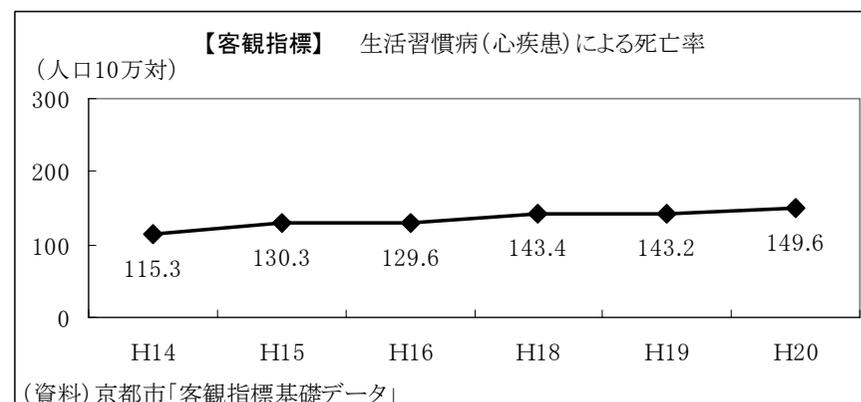
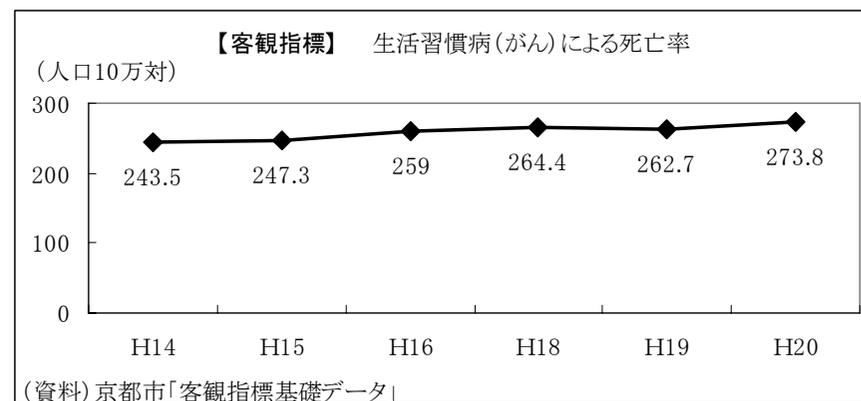
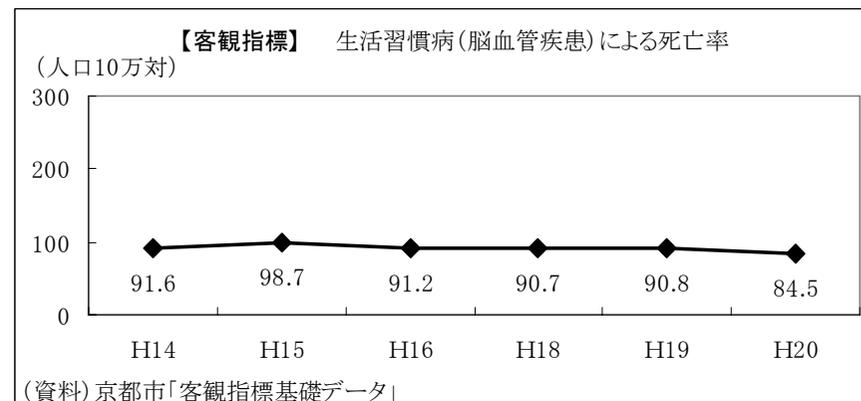
<主な関連計画等>

<ul style="list-style-type: none"> <li>新世紀「スポーツごころ」推進プラン (京都市市民スポーツ振興計画) (-2010)</li> <li>京都市民健康づくりプラン (中間評価及び見直し) (-2012)</li> </ul>
---

●政令市における医療従事者数  
(平成18年12月31日時点)



●生活習慣病(がん, 心疾患)は若干増加傾向(脳血管疾患は減少傾向)



<第1回融合委員会ワークショップ結果>

未来像	重点戦略（政策、施策）	重点戦略（事業）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多子健康長寿都市「京都」</li> <li>・ 子どもから高齢者まで世代を超えた日常交流のある地域づくり</li> <li>・ 80歳を越えても元気に楽しく働ける都市 京都</li> <li>・ 生涯安住の都市</li> <li>・ 高齢者と若者のつながりが深いまち</li> <li>・ 年齢、人種を越えた心温まる京都の街</li> <li>・ 人とのつながりに安らぐ京都</li> </ul>	<p><b>（多世代交流）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 地域における三世代交流の場の設置</li> <li>➢ 高齢者のつどうサロンと働く親が安心できる地域の子どもの見守り活動の融合</li> </ul> <p><b>（各世代の役割発揮）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 若者（学生）ちょう（超）兵制度→農林、環境、福祉などに従事する</li> <li>➢ 多様性の活きる社会を創るため、高齢者や障害者にも地域で担える役を持ってもらう</li> <li>➢ 高齢になっても役割を持てる社会（年寄りを働かせよう）</li> <li>➢ 高齢者ちょう（超）兵制度</li> <li>➢ 高齢者の活性化</li> <li>➢ 元気な高齢者の知恵を活かす</li> </ul> <p><b>（支える仕組み）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ シルバー110番（市民力で）。地域資源を中心に身近なところに相談窓口を</li> <li>➢ 雇用政策の充実（ものづくり産業、健康福祉の担い手増）</li> </ul> <p><b>（住みよいまち）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 住みよいまちづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 若者や学生が高齢者住宅にステイ</li> </ul>

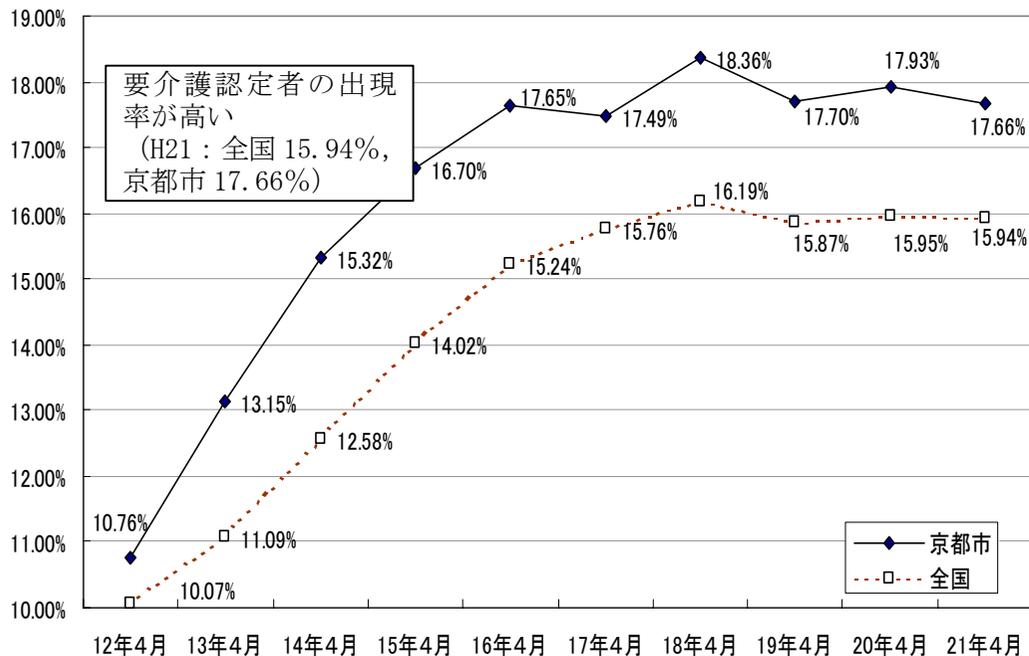
<各種提言・発言>

項目	内容
部会	・若い人のエネルギーと年寄りの知恵を融合するという姿勢が大切(活①)
点検	・もっと安心して健康に ⇒虐待の根絶に向け関係機関・地域と一層の連携を
研究会	・誰もがすべてのライフステージを楽しめるまち ～子ども, 若者, お年寄りに笑顔, 安心, いきがい, 夢を～

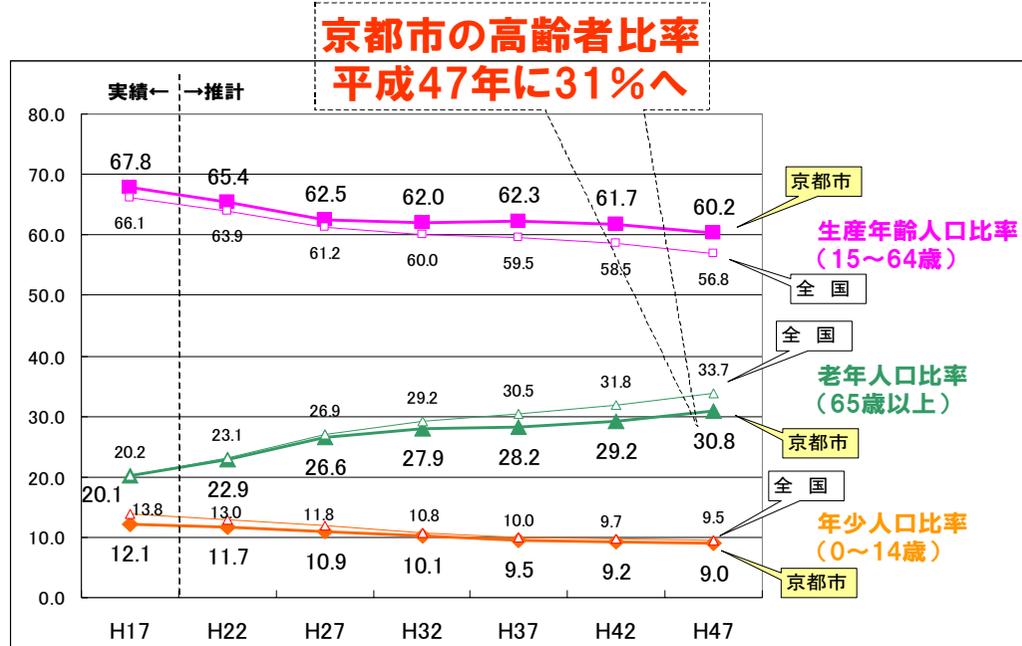
<主な関連計画等>

- ・京都市交通バリアフリー全体構想・第4期京都市民長寿すこやかプラン(-2011)
- ・京(みやこ)・地域福祉推進指針

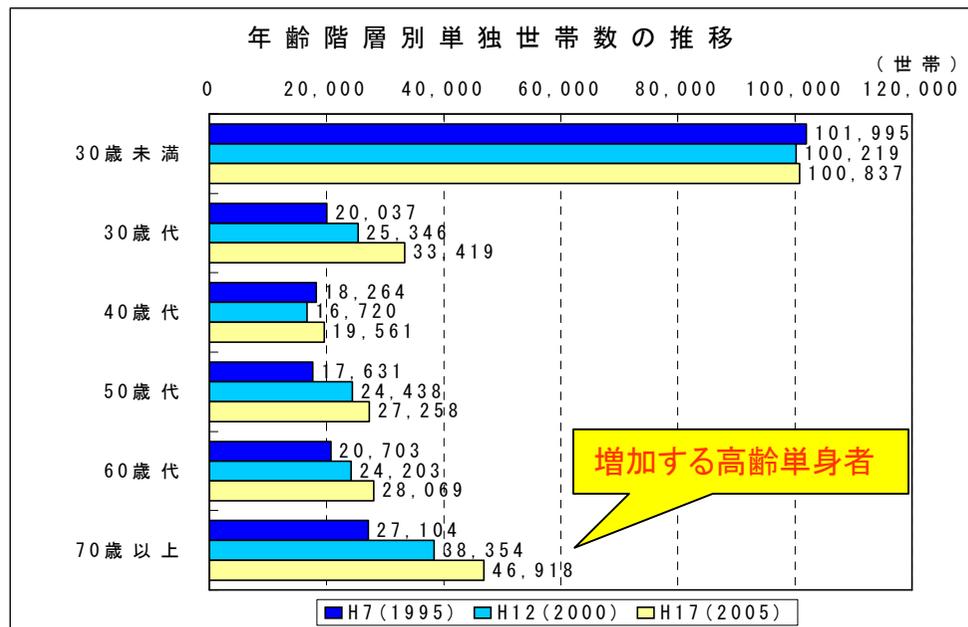
●要介護(要支援)認定者出現率の推移



●京都市の将来推計人口の年齢別構成



(国立社会保障・人口問題研究所資料による将来推計)



増加する高齢単身者

<第1回融合委員会ワークショップ結果>

未来像	重点戦略（政策、施策）	重点戦略（事業）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子育てしやすいまち（将来に希望が持てるまち）</li> <li>・ 「子育ては“ブランク”ではなく「スキル」である」という意識</li> <li>・ 多子健康長寿都市「京都」</li> <li>・ 子育てしやすく、京の雅を味わえる生活</li> <li>・ 男女が共に仕事と家庭を両立</li> <li>・ 楽しんで子育てできるまち</li> <li>・ 子育ても孤立させない地域社会 京都</li> <li>・ 子ども達が輝く将来を描くことのできる京都</li> <li>・ 京人（みやこびと）が営む</li> <li>・ 美・伝統・芸術を創造する都市</li> </ul>	<p><b>（子どもの視点からの子育て支援）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 0～3歳（できれば9歳）までの人間としての基礎作りの間に十分愛情が満たされる様に、子どもからお母さんをうばわない政策</li> <li>➢ 子どもの24時間を見直す</li> <li>➢ 子どもに大切にされているという感覚を生む</li> <li>➢ 子どもをサポートするという視点からの育児サポート・教育</li> </ul> <p><b>（子育ての条件整備）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 合計特殊出生率2.0以上の達成できる教育、医療、住宅の整備</li> <li>➢ 待機児童「0」のまち「京都」の実現</li> <li>➢ 他府県からの若いカップル世代の流入を促進する子育て支援の整備</li> </ul> <p><b>（コミュニティ）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 地域における三世代交流の場の設置</li> <li>➢ 高齢者のつどうサロンと働く親が安心できる地域の子ども見守り活動の融合</li> <li>➢ まちの縁側222戦略（昔のちびっ子広場を縁側づくりへ）</li> </ul> <p><b>（男女共同参画）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 子育てと雅の文化「男女共同参画社会の実現」             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所の確保，学校教育の充実</li> <li>・ 雇用，就業における規則実施の強化（現実には規則等は順守されていない）</li> <li>・ 男女共同参画社会のモデルの提示による啓発活動</li> <li>・ 男女共同参画のロールモデルの提示</li> <li>・ 学校教育・社会教育を通じた，また子ども，成人を対象とした教育の徹底</li> <li>・ 京都市および京都市関連機関からの実施</li> <li>・ 次世代育成法の徹底およびより進んだ条例の制定</li> </ul> </li> </ul> <p><b>（ひとづくり）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 人を不快にさせることを恥ずかしいと思える人材の育成</li> <li>➢ 多文化共生，共助ネットワーク，歴史文化体験</li> <li>➢ 教育の充実，「京都人の育成」</li> <li>➢ 学校教育に活かす</li> </ul>	<p><b>重点戦略（事業）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 母親自身の社会との隔離感を埋める mini スキルアップ講座（エコ，食育）</li> <li>➢ 市立幼稚園→公立小の教育の充実</li> <li>➢ 環境の取組も幼児期より</li> <li>➢ 教員の待遇アップ</li> <li>➢ 保育所，児童館，放課後まなび教室（働いている間の子どもの居場所）</li> <li>➢ 子育て支援ボランティア（高齢者の生きがい対策にも）</li> <li>➢ 子どもたちに社会的な役割を与える             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光案内，ごみ分別，掃除</li> </ul> </li> <li>➢ 京都ならではの教育（特に初等教育）</li> <li>➢ ものづくり教育</li> <li>➢ 男性の育児参加 男性支援</li> <li>➢ 未来の京都を担う子ども，若者への郷土愛育成プログラム（京育）</li> </ul>

<各種提言・発言>

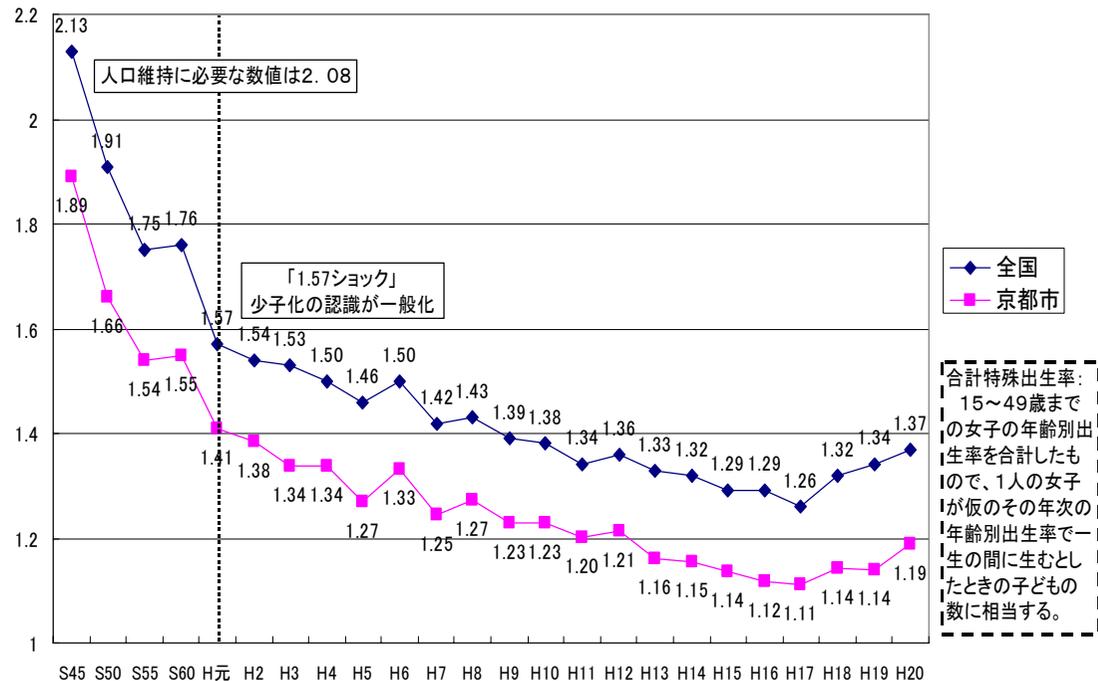
項目	内容
部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらゆる検討項目において未来を担う子どもたちへの働きかけを行うような方法が必要 (う①)</li> <li>都市経営を考えるうえで、子供の少なさが一番の課題 (す①)</li> <li>子どもたちもひ弱になっている (す①)</li> </ul>
点検	<ul style="list-style-type: none"> <li>もっと産み育てたくなる京都に</li> <li>⇒子育て支援ニーズを把握し、先進的な取組を</li> <li>⇒保険医療面での支援の拡充を</li> <li>⇒地域ぐるみの子育て・教育の更なる充実を</li> <li>もっと安心して健康に</li> <li>⇒虐待の根絶に向け、関係機関・地域と一層の連携を</li> </ul>
研究会	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰もがすべてのライフステージを楽しめるまち</li> <li>～子ども、若者、お年寄りに笑顔、安心、いきがい、夢を～</li> </ul>
100人	<ul style="list-style-type: none"> <li>京都(^0^)/ にこわく</li> <li>子どもがいきいき育つような社会の実現 (地域もおやじも企業も行政もそれぞれが子どもに関心を持ち活発に活動する)</li> <li>まちづくりは人づくりから</li> <li>子育ての喜びを共有し、赤ちゃんからお年寄りまで、みんなが安心して、心豊かに暮らせるまち・京都</li> </ul>

<主な関連計画等>

- 第4次きょうと男女共同参画推進プラン (策定中)
- 子ども・若者総合支援 (策定中)
- 新たな京都市の子育て支援の総合計画 (2010-2014) (策定中)

●京都市の合計特殊出生率の推移

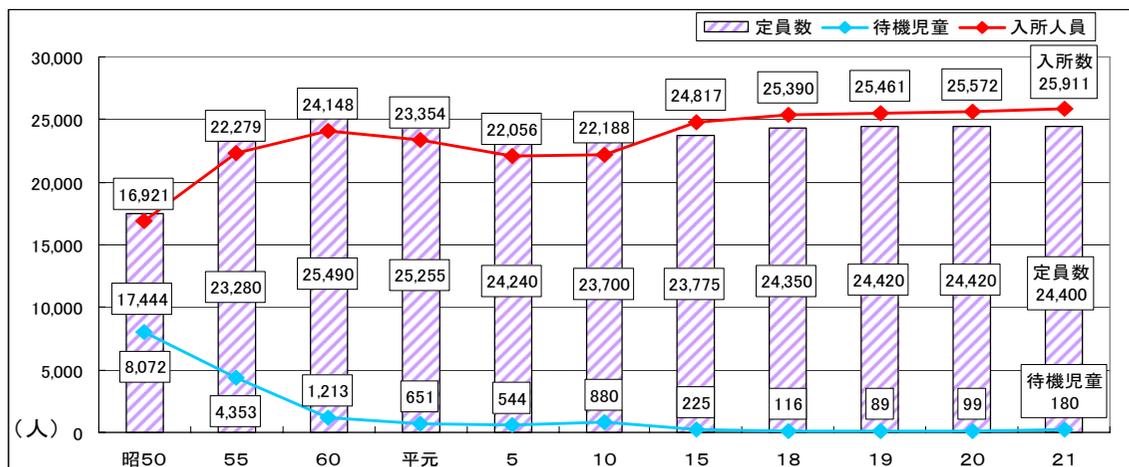
第2次ベビーブーム  
昭和46～49年



合計特殊出生率：15～49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、1人の女子が仮のその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。

<資料>全 国：厚生労働省人口動態調査  
京都市：京都市資料

●保育所入所状況等の推移



<第1回融合委員会ワークショップ結果>

未来像	重点戦略（政策、施策）	重点戦略（事業）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・いつまでも住みつづけたいと思える地域づくり</li> <li>・日本、そして世界の人々を魅了する歴史都市、創造都市(京都を訪れたい・京都で学びたい・京都で働きたい・京都で暮らしたい)</li> <li>・学生が逃げない京都</li> <li>・国内外から人々が集い住み続けるまち 京都</li> <li>・人を育てるまち、日本文化のまち</li> <li>・開かれた共同が実践されるまち</li> <li>・京都＝修行ができる、自分が高められる</li> </ul>	<p><b>（人材の集積）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢「都市間競争の時代にあって輝きを失わない都市」を促進する</li> <li>・企業立地の先を行く人材立地（リッチ）</li> <li>➢芸術文化を産業に</li> <li>・京都で芸術活動を行い、芸術活動が楽しめる条件づくり</li> <li>・観光との連携、施設整備、活動支援、海外交流</li> <li>➢ファンクラブとサポーターづくり</li> <li>・「ファンクラブ」：金は出す、口は出さない</li> <li>・「サポーター」：金と汗と口を出す</li> </ul> <p><b>（人材育成）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢グローバルな人材教育</li> <li>・世界からの人材、才能、頭脳が集まる制度</li> <li>➢多種多様な民の人材交流</li> <li>➢国際市場を創設する（ベトナム、フィリピン、コリアン・・・）（多文化共生の拠点とする）</li> <li>➢&lt;融合&gt;歴史遺産を現代に継承する人材育成（教育・産業）</li> <li>➢まちづくり人材を先行投資的に育成する教育プログラム</li> <li>➢学生→京都に引き続き居住する→まちづくりに貢献する機会を</li> <li>➢修行者ネットワークの創設</li> <li>➢グローバル人材育成戦略①</li> <li>・京都の文化や歴史的なバックグラウンドを理解し、地元の文化に誇りを持ち、責任ある社会人としての行動を心がけることのできる人材を養成する教育環境を初等・中等教育からスタートさせる。</li> <li>➢グローバル人材育成戦略②</li> <li>・教育現場において、実際に豊富な海外経験やビジネス経験をした人たちを教育現場に配置し、その経験や実績を活かした実のある教育を実践する。</li> <li>➢グローバル人材育成戦略③</li> <li>・より多くの教員やその指導者に、民間企業等においてインターシップを体験させ、実社会を体験することにより教育者としての社会的常識の幅を広げる。</li> <li>➢グローバル人材育成戦略④</li> <li>・教員が独自性のある授業ができるようあらゆる障害を取り除く手立てを講じ、積極的にやる気のある教育者を優遇するシステムを構築する。</li> </ul> <p><b>（雇用の確保）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢雇用政策の充実（ものづくり産業、健康福祉の担い手増）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢起業・就職をもっとサポート</li> </ul>

<各種提言・発言>

項目	内容
部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で道を切り拓く、夢のあるひとづくりを教育の中で実現できないか。(す①)</li> <li>・活性化とは人が集まること。京都で仕事をしたいという方を集めるための仕掛けが必要(活①)</li> </ul>
点検	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと若者に夢と希望を</li> </ul> ⇒国等と連携して総合的なニート対策と若者の豊かな人間性や社会性を育む教育を
研究会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の場を広げ発展し続ける都市</li> </ul> ～ひと・もの・情報呼び込み、経済を活性化させる～
100人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・き・わ・み ～京都・若者・未来の構想～</li> </ul> やりがいや目標とする仕事などを見つけた学生が京都にあふれることで、京都全体が活気に溢れる。

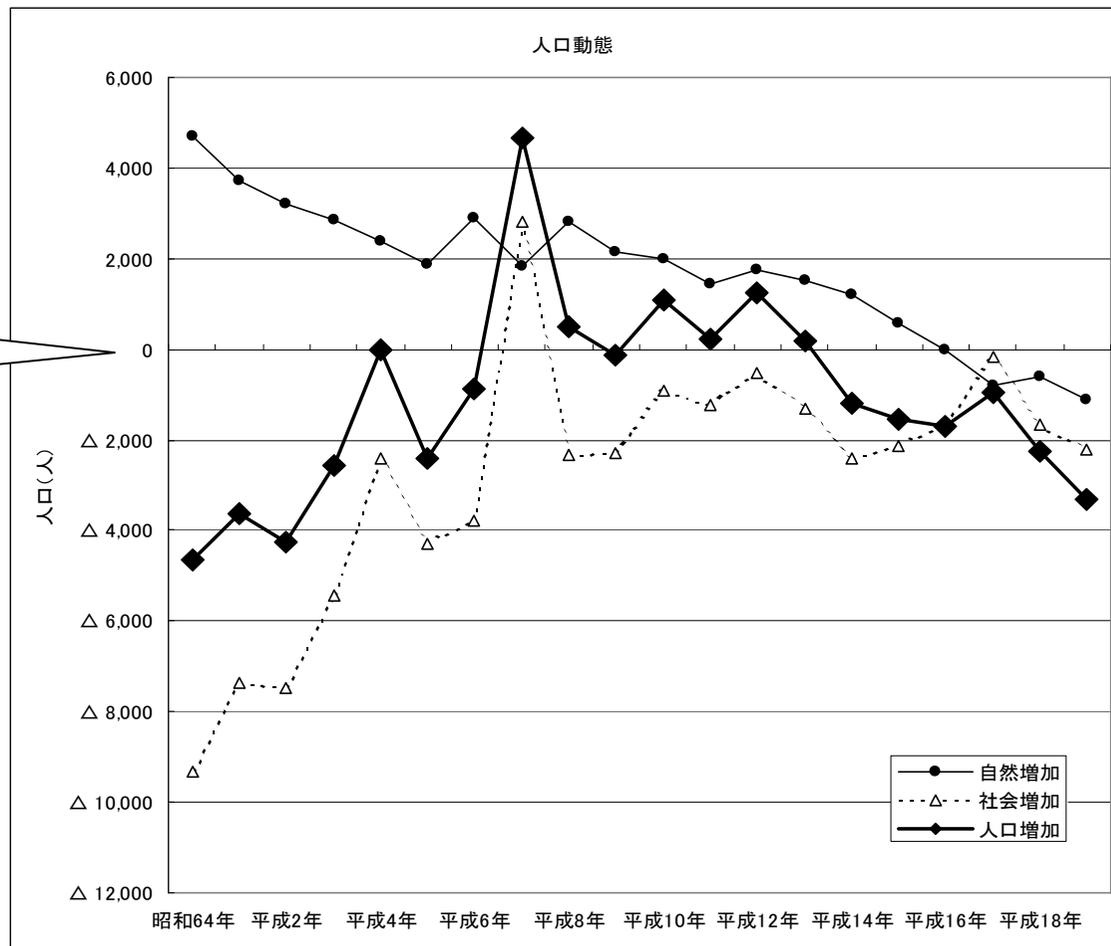
<主な関連計画等>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都市ユースアクションプラン（第3次京都市青少年育成計画）（策定中）</li> <li>・大学のまち京都・学生のまち京都推進計画（2009-2014）</li> </ul>
--

●人口の転出過多である  
年間2千人前後の転出超過（H8以降）  
（平成7年の増加は、震災の影響によるもの）

●京都市の若年人口（京都市の推計人口：平成20年10月現在）

年齢区分	総数(人)	男(人)	女(人)	構成比(%)	備考
13～15歳	36,224	18,502	17,722	2.5	中学生年齢
16～18歳	40,936	20,663	20,273	2.8	高校生年齢
19～22歳	94,305	47,650	46,655	6.4	大学生年齢
13～30歳	328,269	164,250	164,019	22.4	プランの対象年齢
15～34歳	389,306	193,529	195,777	26.5	ニート、フリーターの範囲
全年齢総数	1,467,313	697,656	769,657	100.0	



<第1回融合委員会ワークショップ結果>

未来像	重点戦略（政策、施策）	重点戦略（事業）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年齢、人種を越えた心温まる京都の街</li> <li>・ 地域で生き延びる力</li> <li>・ 「包み込む社会」地域コミュニティの21世紀型再建</li> <li>・ 子どもから高齢者まで世代を超えた日常交流のある地域づくり</li> <li>・ 多様な主体（市民、企業、行政）が地域社会の問題解決に取り組む『共助』の京都。</li> <li>・ 地域の個性がキラリと輝いているまち</li> <li>・ 人が優しいまち・支えあうまち～地域力と人間力の向上</li> <li>・ ただいま都市</li> <li>・ 若者の活力を引き出す京都を目指して</li> <li>・ 大人が元気に暮らせるまち、住み心地の高い街（文化度だけでなく）、伝統産業、伝統文化を大切にするまち（お金で買えない文化の蓄積）</li> <li>・ 人と環境がやさしい京都</li> <li>・ 自治のまち京都</li> </ul>	<p><b>（地域分権）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ コミュニティ政策</li> <li>・ 地域主権＋地域による地域運営＝エンパワーメント 例）まちづくりアドバイザー、コーディネーター</li> <li>➢ 地域分権</li> <li>・ 分権とは何かをじっくり考える</li> <li>・ 地域で地域を運営</li> <li>→ 金と決定権限を移譲する</li> <li>➢ 市民参加、NGOの関わり方</li> <li>・ ひとづくり</li> <li>・ 仕組みづくり</li> <li>・ 実践</li> <li>➢ 市民が参加する行政 区-学区-町内会の位置づけ再構築</li> <li>➢ 強固なコミュニティ（地縁に頼りきらない重層的コミュニティの構築）</li> <li>➢ 地域社会（コミュニティ）がしっかりしているまち</li> <li>➢ 地域コミュニティの再活性化</li> </ul> <p><b>（コミュニティの魅力向上）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ コミュニティ単位の「わが町宣言」！</li> <li>➢ 地域ごとのキャッチフレーズ制定</li> <li>・ おもてなし、ごみゼロなど</li> <li>➢ 地域の個性の理解と発展</li> <li>➢ 質の高い社会資源の提供と定期的な把握・見直し</li> </ul> <p><b>（コミュニティにおける多様な交流）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 地域における三世代交流の場の設置</li> <li>➢ 高齢者のつどうサロンと働く親が安心できる地域の子どもの見守り活動の融合</li> <li>➢ 多様性の活きる社会を創るため、高齢者や障害者にも地域で担える役を持ってもらう</li> <li>➢ 元気な高齢者の知恵を活かす</li> <li>➢ 地域の発展に多様な人が関わる （例）留学生、観光客、住民</li> <li>➢ 多文化共生のまちづくりの推進</li> <li>➢ 多文化共生、共助ネットワーク、歴史文化体験</li> <li>➢ 人を信じる、人間の関わりを地域の中で培う</li> <li>➢ 誰もが生きがいをもてる地域態勢を構築</li> </ul>	<p>➢ 基本計画で「京都スタイル」な暮らし方モデルを提案</p> <p>≪情報の共有≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 地域に「わたしの情報箱」の設置</li> <li>・ 個人・居住地を属性した情報コンテンツの創設 大⇒小ではなく、小⇒大へ</li> <li>➢ 地域活動についての情報交換の場の設定（学区内も学区間も）</li> <li>➢ 種々のグループの交流による地域の活性化</li> <li>➢ 子どもたちに社会的な役割を与える</li> <li>・ 観光案内、ごみ分別、掃除</li> <li>➢ 伝統を支える人たちと若者のふれあい、交流の場の設置</li> </ul>

➤ライフスタイルの変革を地域コミュニティの活発化によって実現する

**(見守り・支え合いの仕組み)**

- シルバー110番（市民力で）。地域資源を中心に身近なところに相談窓口を
- 友愛訪問活動
- おもてなしの心，支えあう心を高める施策の推進
- 良好な地域住民ネットワークを構築（「お互い様ですよ！！」と気軽に声かけのできる様な）
- まちの縁側222戦略（昔のちびっ子広場を縁側づくりへ）
- ばったん床机が似合う道づくり戦略
- 交流する場所づくり
  - ・それを結ぶ動線の充実 例) 交通手段，道

**(ソーシャルビジネス)**

- 地域，学区単位で社会ビジネスを起こそう
  - ・地域資源を活用したコミュニティビジネスを
- 京都で社会ビジネスを起こそう
  - ・社会企業家の育成。コミュニティビジネス，ソーシャルビジネス
- 商いや物づくり（職人）が成り立つ制度改革（地域，建物）

**(コミュニティのサポーターづくり)**

- 学生→学生市民へ→学生区民へ
- 学生，地域の交流
- 学生が地域で活躍できる場をつくり
- 若者の活動支援ネットワークづくり
- 若者と地域との結びつき構築
- 大学と地域を結びつける，受け皿づくり
- ファンクラブとサポーターづくり
  - ・「ファンクラブ」：金は出す，口は出さない
  - ・「サポーター」：金と汗と口を出す
- まちづくり人材を先行投資的に育成する教育プログラム

**(コミュニティ間の連携)**

- さまざまな地域をつなぐ
  - (例) 山間部，町中
  - (例) コリアンの歴史を活かす
- 姉妹都市のように町内会・自治会単位で過疎地域との姉妹地区協定を結ぶ

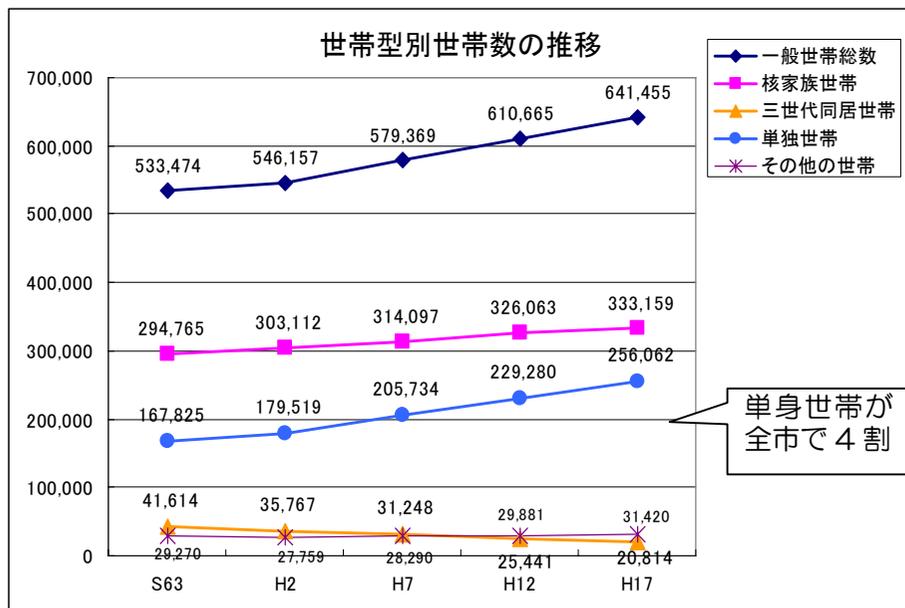
<各種提言・発言>

項目	内容
部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民参加を語るときに市民活動、地域の自立を無視しては進められない（う①）</li> <li>・今の親世代は「家族」が優先で、次が「地域」となっている（す①）</li> <li>・伝統行事の担い手の世代交代ができていない（活①）</li> </ul>
点検	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと広範な市民参加を</li> <li>⇒学区など身近な地域で課題の検討と交流の促進を</li> <li>⇒「団塊の世代」に地域活動を</li> </ul>
研究会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助け合う地域、見守る社会、住み続けたい京都</li> <li>～これまでの資源を活かした市民主体による京都ならではの風を感じるコミュニティづくり～</li> </ul>
100人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人をつなぐ福祉のコミュニティづくり</li> <li>ご近所さんを気にかけて、声をかけ、学区単位に気軽に話せる居場所があり、気楽に助け合える素地を地域に取り戻すこと</li> </ul>
マニフェスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市と周辺部が密接に関連するまち</li> </ul>
若者提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者が学区に愛着を持てるよう、学区長の配置</li> </ul>

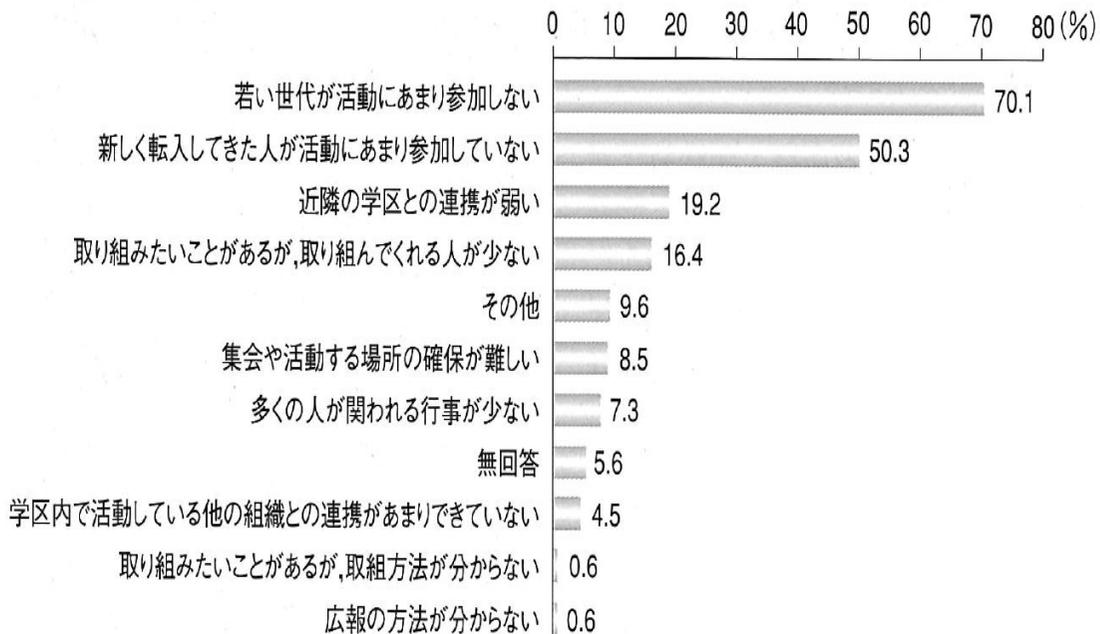
<主な関連計画等>

- ・京・地域福祉推進指針
- ・地域コミュニティ活性化懇話会（策定中）

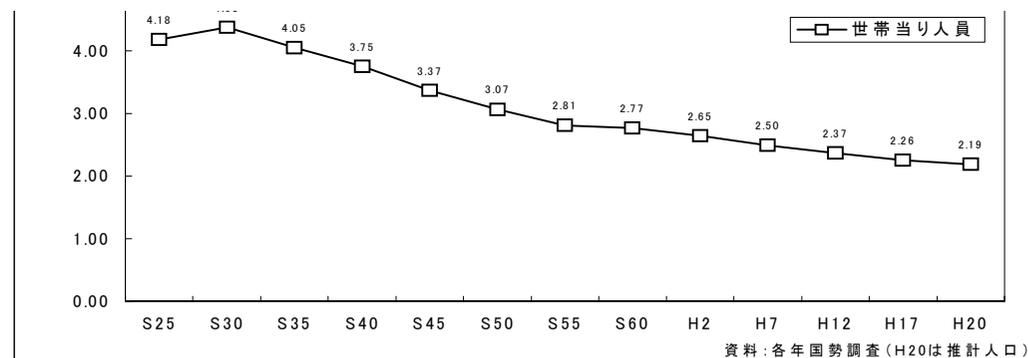
●単身世帯の増加が進んでいる。



●学区内の活動について、課題は何ですか？



●コミュニティが弱体化している。世帯当り人員は2.19人（H20）





<第1回融合委員会ワークショップ結果>

未来像	重点戦略（政策、施策）	重点戦略（事業）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 京都の特性に付加価値を加える「地域プロジェクト」による活力創造のまち</li> <li>・ 京（みやこ）流コンパクトシティ</li> <li>・ 日本中・世界中から人が集い交流する文化都市</li> </ul>	<p><b>（コンパクトシティの社会資本）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 広域的な社会資本整備                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鉄道，道路，空港，港湾などへのアクセス</li> </ul> </li> <li>➢ 歴史的都市基盤の保全・整備（都市計画，住宅，道路，建築指導，景観の融合）</li> <li>➢ 商いや物づくり（職人）が成り立つ制度改革（地域，建物）</li> </ul> <p><b>（コミュニティ）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ コミュニティ政策                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域主権＋地域による地域運営＝エンパワーメント例）まちづくりアドバイザー，コーディネーター</li> </ul> </li> <li>➢ 地域分権                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分権とは何かをじっくり考える</li> <li>・ 地域で地域を運営</li> </ul> </li> </ul> <p>→ 金と決定権限を移譲する</p> <p><b>（地域プロジェクト）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 公民協働の多彩な「地域プロジェクト」の創生</li> <li>➢ 拠点づくり（ex 岡崎，北山 文化ゾーンとして再整備。公共空間，緑，情報）</li> <li>➢ 駅周辺の活性化</li> <li>➢ 南部開発 拠点の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 公共交通機関インフラ大改造（公共交通無料）</li> </ul>

<各種提言・発言>

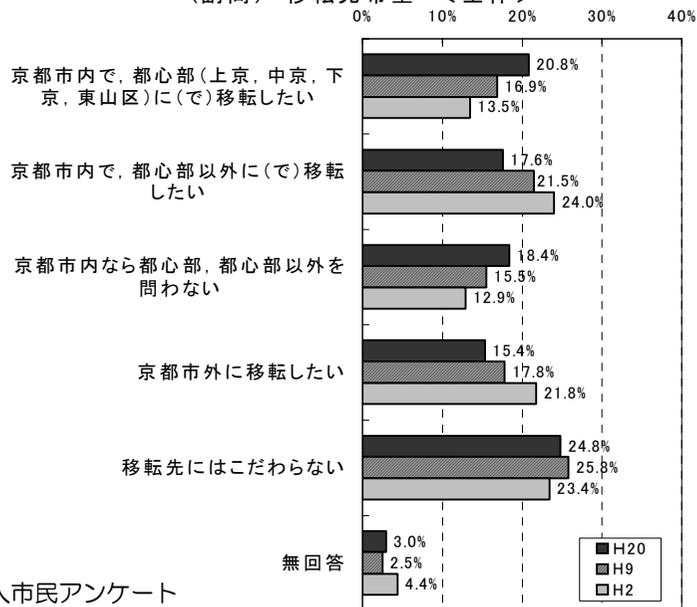
項目	内容
部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都は広い裏道もなく震災が起こると大きな被害が出る(ま①)</li> <li>・山間地域について議論すべき(ま①)</li> <li>・都市インフラの整備だけでなく、運用に市民が関わる方向に進めたらよい(ま①)</li> <li>・京都市というまちのサイズでできることとして職住接近ができればよい(活①)</li> </ul>
点検	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと産業・まちづくりに活力を</li> <li>⇒南部地域の新たな創造, 一層の発展を</li> <li>⇒山間部の活性化を</li> <li>⇒地域ごとの特性を生かしたまちづくりを</li> </ul>
研究会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都らしさを活かした環境先進都市</li> <li>～環境を機軸に新たな京都型の生活・産業・観光・交通スタイルの開発～</li> </ul>
100人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岡崎ホールディングス</li> <li>京都岡崎地域が、人々の集まる魅力的な場所となること</li> </ul>

<主な関連計画等>

- ・らくなん進都(高度集積地区)まちづくり推進プログラム(2009-2012)
- ・次期京都市都市計画マスタープラン(策定中)
- ・新京都市住宅マスタープラン(策定中)

●移転先としては、市内指向が57%

(副問) 移転先希望 <全体>

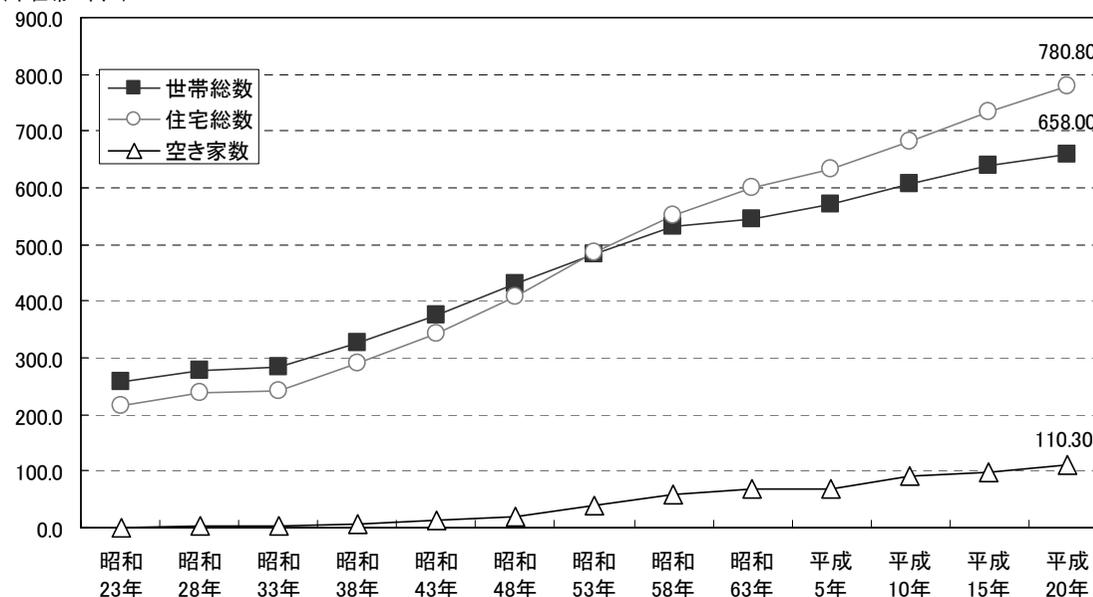


1.2万人市民アンケート

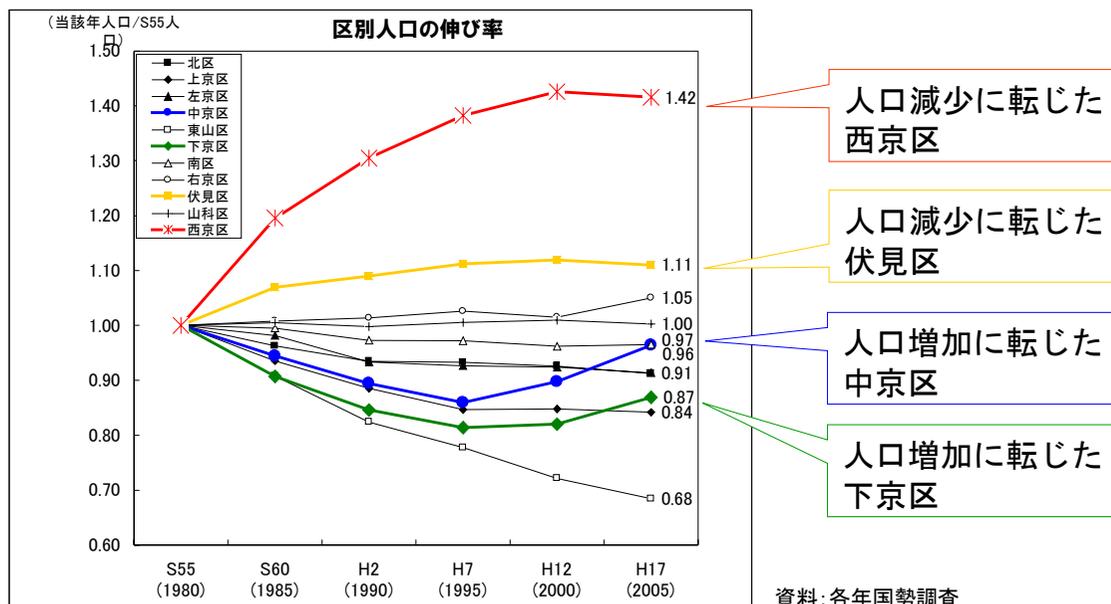
10地域の特性を活かしたコンパクトシティを目指す

●空家率が上昇(H20:14.1%)

(千世帯・千戸)



●人口の都心回帰が進む一方、郊外区が人口減少に転じている



- 人口減少に転じた西京区
- 人口減少に転じた伏見区
- 人口増加に転じた中京区
- 人口増加に転じた下京区

資料:各年国勢調査

<第1回融合委員会ワークショップ結果>

未来像	重点戦略（政策、施策）	重点戦略（事業）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・五感で京都らしさを感じるまち</li> <li>・街全体を世界遺産に</li> <li>・都市の遺産を守り抜く美しく風格のあるまちづくり・ひとづくり・ものづくり</li> <li>・平安から現代までの歴史が体現できる都市</li> <li>・経済と景観の両立</li> <li>・美しい町・人・景観</li> <li>・国際的な環境モデル都市 京都</li> </ul>	<p><b>（新景観政策の推進）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 国家戦略としての京都創生へ</li> <li>➢ 新景観政策の精緻的見直し</li> <li>➢ 景観政策の推進</li> </ul> <p><b>（景観資源の保全・活用）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 世界遺産の活用</li> <li>➢ 社寺仏閣、京町家等の保全</li> <li>➢ 町家の活用</li> <li>➢ 京町家の保全・再生（次世代継承システム）</li> <li>➢ 徹底した「らしさ」の保存と開発</li> <li>➢ &lt;融合&gt;歴史遺産を現代に継承する人材育成（教育・産業）</li> </ul> <p><b>（歴史的景観の基盤とネットワーク）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 各時代の歴史遺産の保全・再生とネットワーク（国家予算、民間ネットワーク）</li> <li>➢ 歴史的都市基盤の保全・整備（都市計画、住宅、道路、建築指導、景観の融合）</li> <li>➢ 歩いてまちのよさを実感（景観、交通、文化、安心安全、にぎわい、バリアフリー、個性豊か）</li> <li>➢ ばったん床机が似合う道づくり戦略</li> <li>➢ 無電柱化</li> <li>➢ 商いや物づくり（職人）が成り立つ制度改革（地域、建物）</li> </ul> <p><b>（生活景）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 居住、建築物…景観</li> <li>・ 公共建築物から更新、改修</li> <li>・ 風の通るまちづくり</li> <li>・ 緑のあるまちづくり</li> <li>➢ 京都ならではの暮らし</li> <li>➢ ヒトがつくる景観</li> <li>・ 市内小中学校の制服を着物に</li> <li>・ 僧侶の方は辻へ</li> </ul> <p><b>（緑地景観）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 環境←伝統的景観から</li> <li>・ 近郊農業の復興</li> <li>・ 緑化は“農”と“鎮守の森”で十分</li> </ul>	<p><b>重点戦略（事業）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 景観保全にメリハリをつける。一律規制の緩和</li> <li>➢ ハード面の景観             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 看板の罰則規定を</li> <li>・ 消防法の特別措置による木造建築の普及</li> </ul> </li> <li>➢ 文化財の保存・復興、歴史博物館の建設</li> <li>➢ 伝統文化の継承・復興。伝統芸能センターの整備</li> <li>➢ 歴史的景観の保全・整備</li> <li>➢ 市内の真ん中に「わたしのしごと館」をつくる</li> <li>➢ 京都府民の日＝7月17日 休日に</li> <li>➢ 伝統を支える人たちと若者のふれあい、交流の場の設置</li> <li>➢ 京都のランドマーク・象徴になるものを作る（100年単位で）</li> <li>➢ 平成の京町家</li> <li>➢ グリーンインフラ（街路整備、河川 etc）</li> <li>➢ 街路整備（緑のじゅうたんをひく）</li> </ul>

<各種提言・発言>

項目	内容
部会	・町家のような地域資源をどう市民、行政が活用していくのか(ま①)
研究会	・京都市らしさを活かした環境先進都市 ～環境を機軸に新たな京都型の生活・産業・観光・交通スタイルの開発～
100人	・市民の景観 市民が「景観」を自分のこととして捉え、景観を見る眼を養い、地域での合意形成を経て、歴史や文化を踏まえた美しく暮らしやすい環境を実現していく。 ・山紫水明の京都 市民が「山紫水明」に触れ、考え、行動する機会を創出する。

<主な関連計画等>

- ・新京都市景観政策
- ・歴史的風致維持向上計画 (2009-2018)

●長屋, 5年で44%減少(H20:18千戸)

**消えゆく京の「長屋」**

生活様式の変化や、修繕費用の高騰など、長屋の減少が懸念されている。京都市は、長屋の保存と活用を推進している。

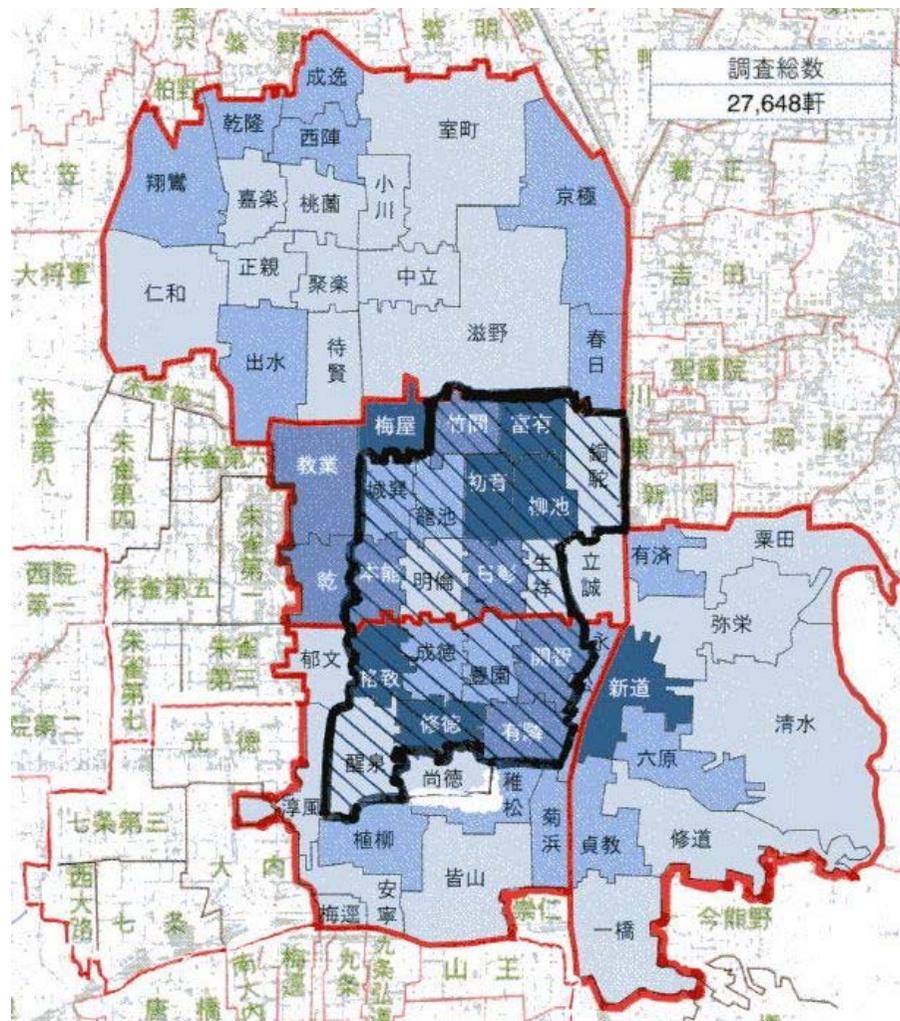
**08年調査 5年で44%減**

分譲、賃貸混在 改修合意難しく

新築増進などで再生された長屋。外観は趣のある長屋の家だ(京都市上京区)

(京都新聞 11月29日)

●京町家等の伝統的建造物が毎年2%消失



平成7年度, 平成8年度, 平成10年度

上図の着色範囲内において, 約2万8千軒の京町家を確認



平成15年度

上図の斜線のエリア内において, 7年間で約13パーセントの京町家が除却

## &lt;第1回融合委員会ワークショップ結果&gt;

未来像	重点戦略（政策、施策）	重点戦略（事業）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 財政の健全化</li> <li>・ 生涯安住の都市</li> <li>・ 市役所から City Hall へ</li> <li>・ 行財政改革における支出削減だけでなく、収入を増やす視点も必要</li> </ul>	<p><b>（地域分権）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 地域分権</li> <li>・ 分権とは何かをじっくり考える</li> <li>・ 地域で地域を運営</li> <li>→ 金と決定権限を移譲する</li> <li>➢ 市民が参加する行政 区-学区-町内会の位置づけ再構築</li> <li>➢ 市のあらゆる施策が市民にひらかれている</li> </ul> <p><b>（地域活性化）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 公民協働の多彩な「地域プロジェクト」の創生</li> <li>➢ 東京一極集中に対峙する情報発信で日本への貢献</li> <li>・ マスメディア</li> <li>・ 観光客 5000 万人に直に伝える</li> <li>➢ 雇用は地域活性化につながる</li> <li>・ 中長期の施策・プロジェクトを示し、中小企業の投資意欲を引き出し、活性化</li> </ul> <p><b>（財政基盤強化）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 財政基盤づくり</li> <li>・ 不採算部門の民営化</li> <li>➢ 寄付文化の醸成戦略</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ ホテル・宿泊税等の新たな税収制度の導入</li> <li>➢ 財政健全化のための民間資金導入・レベニューボンド、新 P F I 方式など</li> <li>➢ 地下鉄の民間委託・東西線は京阪に、南北線は近鉄に</li> </ul>

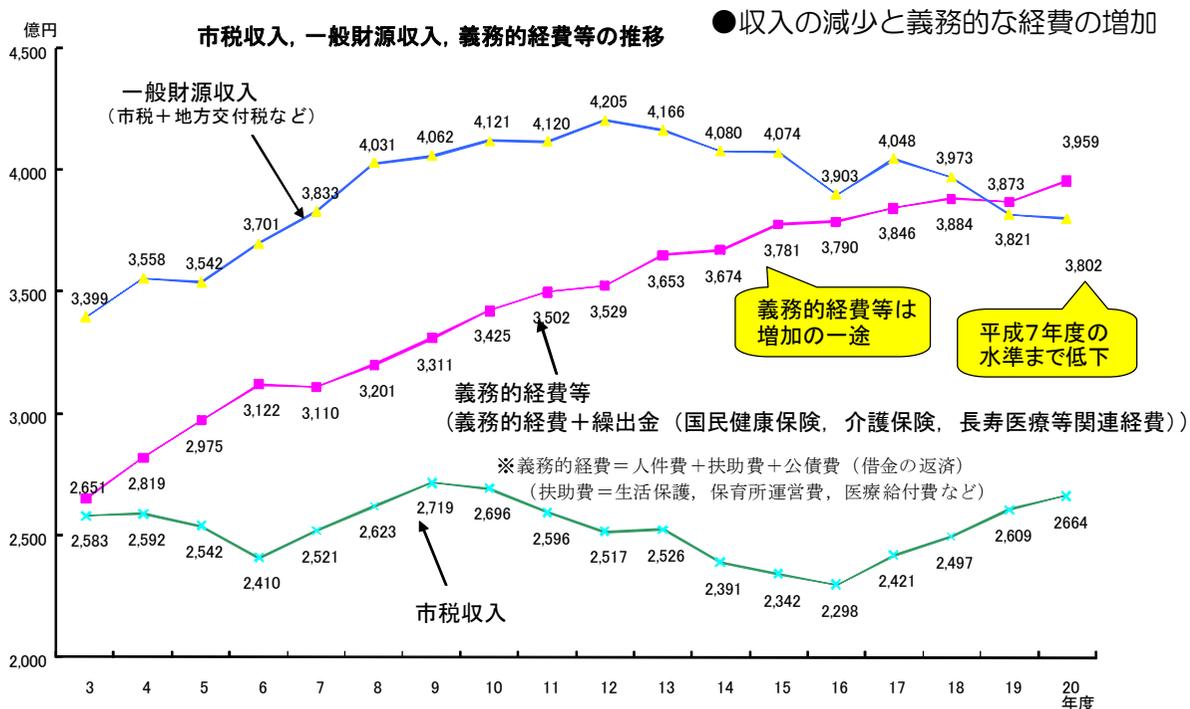
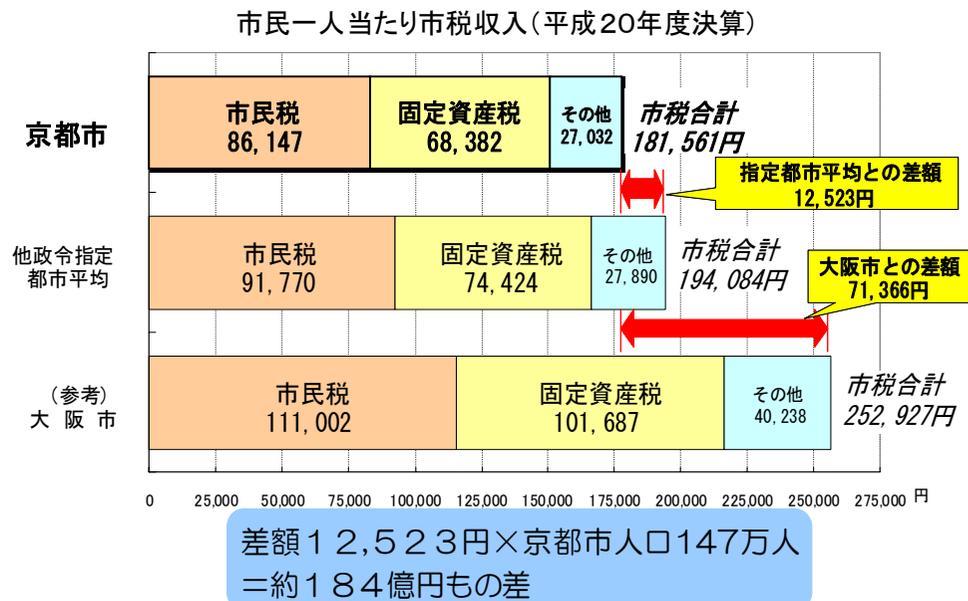
<各種提言・発言>

項目	内容
部会	・あまりお金を使わずに皆で知恵を出し合ってやっていけることを考えることが必要 (う①)
点検	・もっと市民と行政がともに拓く新時代へ ⇒引き続き、選択と集中を ⇒市民の目線に立った行政評価の充実を ⇒職員の意識改革とやる気を高める工夫を
100人	・京都の無駄を斬る六人の侍 地域主権の時代にふさわしい地方自治・京都に 相応しい<住民自治>の実現 安心・安全を基礎とする、<住みやすい・住んでよかった、住んでみたい>京都の実現 その財政的基礎となる京都に相応しい<都市経営>の確立 『京都未来まちづくりプラン』の完全実施 100人委員会からの提言が実行できる<京都市政>の実現

<主な関連計画等>

・京都未来まちづくりプラン (2009-2012)
---------------------------

●極めて弱い京都市の財政基盤



<第1回融合委員会ワークショップ結果>

未来像	重点戦略（政策、施策）	重点戦略（事業）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地下鉄に乗ろう・環境-経営-健康-観光</li> <li>・ 地球にやさしい公共交通優先の歩いて楽しいまちづくり</li> <li>・ 京（みやこ）流コンパクトシティ</li> <li>・ 財政の健全化</li> </ul>	<p>（地下鉄を中心とした交通）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 地下鉄を中心とした交通</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ バス・地下鉄でどこへでも誰でも行ける</li> <li>➢ 自転車も乗れる地下鉄                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ モデル（赤字対策）</li> </ul> </li> <li>➢ 地下鉄の民間委託・東西線は京阪に、南北線は近鉄に</li> <li>➢ 公共交通機関インフラ大改造（公共交通無料）</li> </ul>

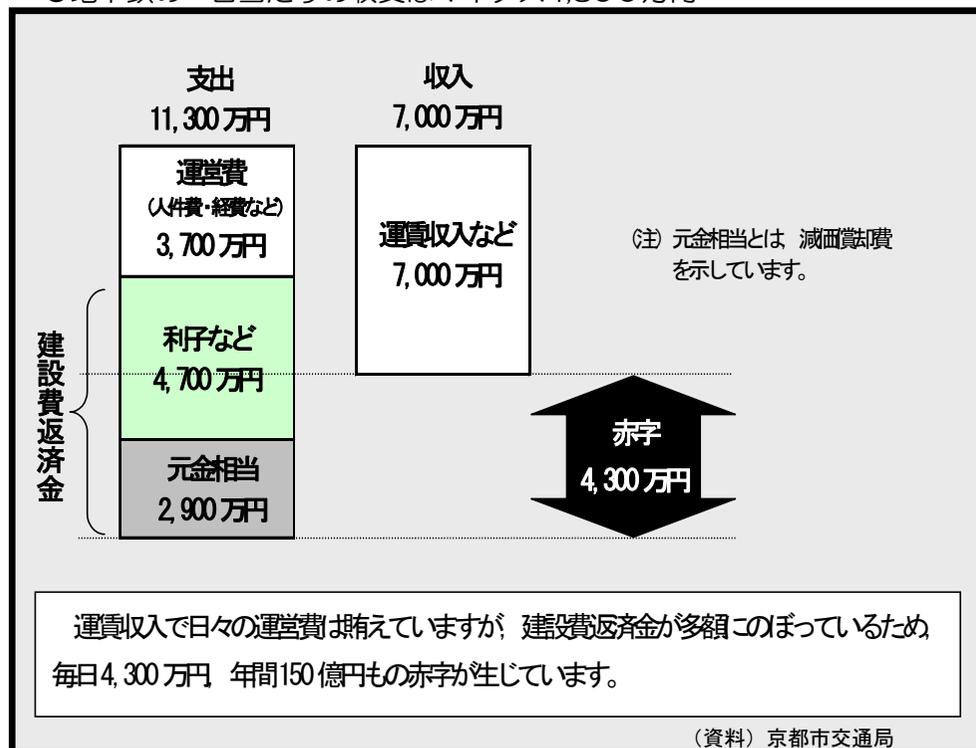
<各種提言・発言>

項目	内容
部会	・公共交通は赤字であることを前提に、どう市民の足を確保するのかということを考えていくことも大切（ま①）
点検	・もっと市全体の交通システムの整備を ⇒公共交通の利用促進を
研究会	・京都らしさを活かした環境先進都市 ～環境を機軸に新たな京都型の生活・産業・観光・交通スタイルの開発～
100人	・のりもの 安全で快適な交通環境をつくる。更なる環境良化をはかる。 交通財政の健全化をはかる。

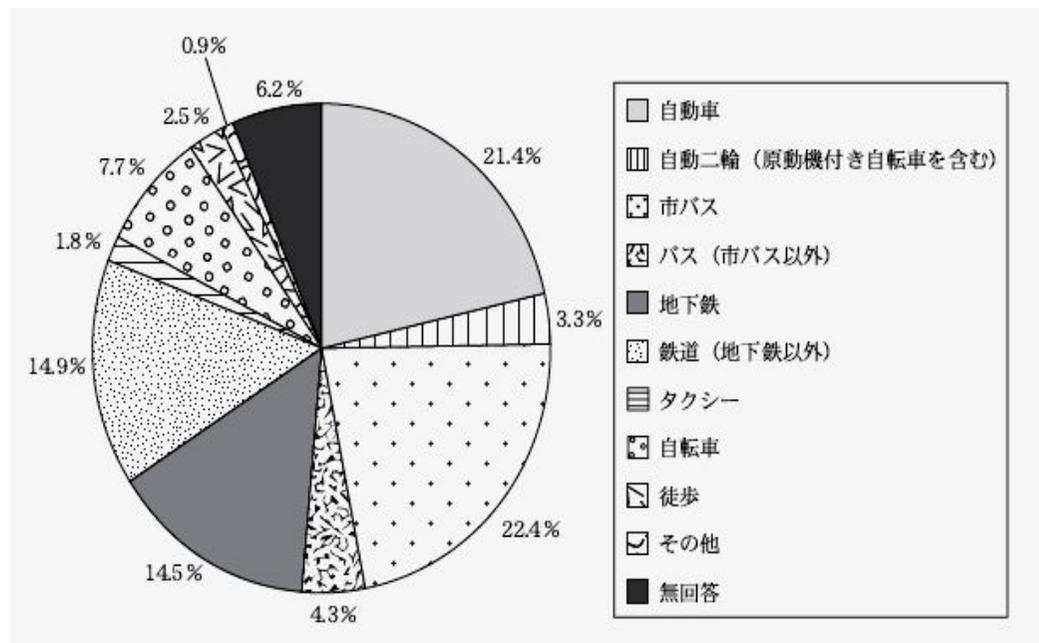
<主な関連計画等>

- ・京都市高速鉄道事業経営健全化計画（2010-2014）
- ・京都市自動車運送事業経営健全化計画（2010-2014）
- ・「歩くまち・京都」総合交通戦略（策定中）

●地下鉄の一日当たりの収支はマイナス4,300万円



●都心部への移動手段は公共交通機関が5割以上



<第1回融合委員会ワークショップ結果>

未来像	重点戦略（政策、施策）	重点戦略（事業）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本、そして世界の人々を魅了する歴史都市、創造都市(京都を訪れたい・京都で学びたい・京都で働きたい・京都で暮らしたい)</li> <li>・人が集い、学び・住み・はたらく創造し続ける文化自由都市・京都</li> <li>・創造的産業都市</li> <li>・文化と産業の融合都市</li> <li>・観光産業が発展し、市民が参画する低炭素社会</li> <li>・新文明開化(アジア戦略と新成長経済)</li> <li>・時代をリードする産業や企業を育成、振興する</li> <li>・国家、関西、京都府などのビジョンとの整合性を図り、それらの中で京都市を位置づける広域的視点が必要</li> </ul>	<p><b>(融合による産業創出)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢国家戦略としての京都創生へ</li> <li>➢環境と歴史・文化との融合</li> <li>・環境：先端技術、工夫された市民生活(ライフスタイル)</li> <li>・歴史：文化：京都ならではの第1級の特徴</li> <li>・環境首都、文化首都</li> <li>➢京都の伝統文化、伝統産業、伝統芸術をつなぐ体制をつくる</li> <li>➢伝統と先端</li> <li>➢&lt;融合&gt;学術・産業コンベンションの誘致</li> </ul> <p><b>(芸術文化産業)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢芸術文化を産業に</li> <li>・京都で芸術活動を行い、芸術活動が楽しめる条件づくり</li> <li>・観光との連携、施設整備、活動支援、海外交流</li> <li>➢徹底した「らしさ」の保存と開発</li> </ul> <p><b>(環境ビジネス)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢大規模排出源対策</li> <li>・国の政策と地域の政策</li> <li>・高付加価値産業</li> <li>➢環境と経済成長の連鎖を生む</li> <li>・低炭素社会化を経済と技術イノベーションで生み出す</li> <li>➢環境←伝統的景観から</li> <li>・近郊農業の復興</li> <li>・緑化は“農”と“鎮守の森”で十分</li> <li>・“庸”?</li> <li>➢京都の食料自給率のUP(CO2を下げる)</li> </ul> <p><b>(ベンチャー)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢「都市間競争の時代にあって輝きを失わない都市」を促進する</li> <li>・企業立地の先を行く人材立地(リッチ)</li> <li>➢研究開発型企業の育成、集積</li> <li>➢ベンチャー企業の創出</li> <li>➢創造的サービス産業の振興</li> <li>➢世界最先端技術・情報</li> </ul> <p><b>(ソーシャルビジネス)</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢積極的なMICE誘致施策の推進</li> <li>➢一子相伝のものづくりなど</li> <li>➢「ほんまもん」づくりの継承</li> </ul>

	<p>                     ▶地域、学区単位で社会ビジネスを起こそう                      ・地域資源を活用したコミュニティビジネスを                      ▶京都で社会ビジネスを起こそう                      ・社会企業家の育成。コミュニティビジネス、ソーシャルビジネス                      (産業基盤整備)                      ▶広域的な社会資本整備                      ・鉄道、道路、空港、港湾などへのアクセス                      ▶南部開発 拠点の整備                      ▶公民協働の多彩な「地域プロジェクト」の創生                      (雇用創出)                      ▶雇用は地域活性化につながる                      ・中長期の施策・プロジェクトを示し、中小企業の投資意欲を引き出し、活性化                      ▶雇用政策の充実(ものづくり産業、健康福祉の担い手増)                      (人材育成)                      ▶グローバルな人材教育                      ・世界からの人材、才能、頭脳が集まる制度                      ▶グローバル人材育成戦略②                      ・教育現場において、実際に豊富な海外経験やビジネス経験をした人たちを教育現場に配置し、その経験や実績を活かした実のある教育を実践する。                      ▶グローバル人材育成戦略③                      ・より多くの教員やその指導者に、民間企業等においてインターシップを体験させ、実社会を体験することにより教育者としての社会的常識の幅を広げる。                      ▶京都以外では日本文化、工芸などの衰退が激しい。京都だけでも守っていける仕組み⇒人材育成                      ▶＜融合＞歴史遺産を現代に継承する人材育成(教育・産業)                      ▶商いや物づくり(職人)が成り立つ制度改革(地域、建物)                      ▶大学の連携による新しい技術・人材の育成プラン                      ▶人材の上手な活用                 </p>	<p>                     ▶ごみの仕分けを地域住民のコミュニティビジネスにしていく                      ▶市内の真ん中に「わたしのしごと館」をつくる                      ▶ものづくり教育                 </p>
--	--	---

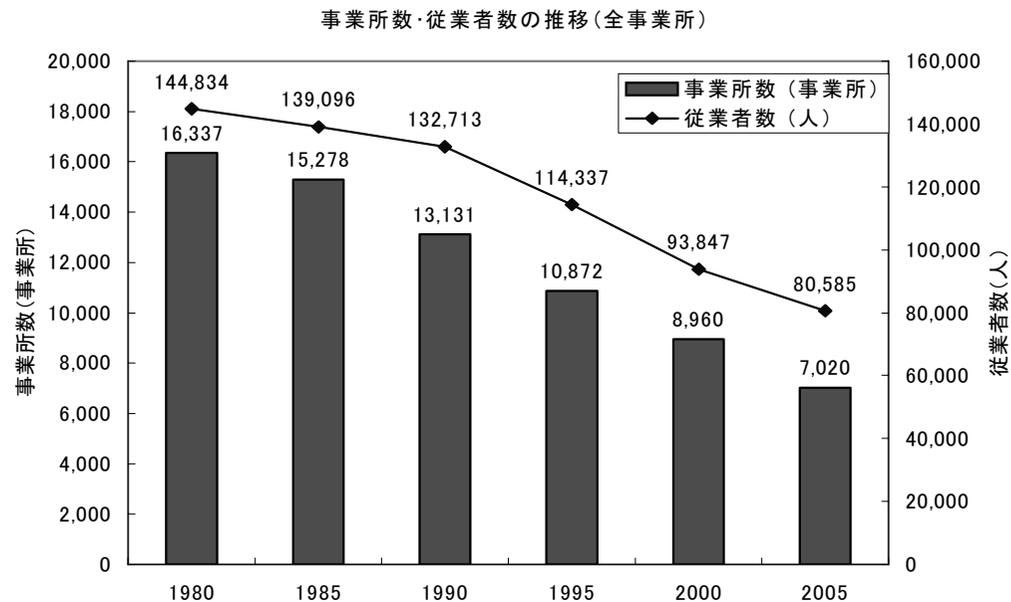
<各種提言・発言>

項目	内容
部会	・歴史、文化に優れたまちという特色が活かされれば (ま①)
点検	・もっと市民の文化力で京都の創生を ⇒文化産業、創造産業の創出
研究会	・交流の場を広げ発展し続ける都市 ～ひと・もの・情報を呼び込み、経済を活性化させる～
100人	・DVS ～伝統産業とベンチャー企業の振興～ ほんまものの文化、伝統産業を継承し、次世代に生かす コンテンツ産業と職人のコラボレーションにより、新たな市場を形成する
マニフェスト	・伝統産業があふれるまちづくり ・地域シーズ発掘を歓迎するまち
若者提案	・伝統産業を活性化するために、女性にとって良い環境を築く

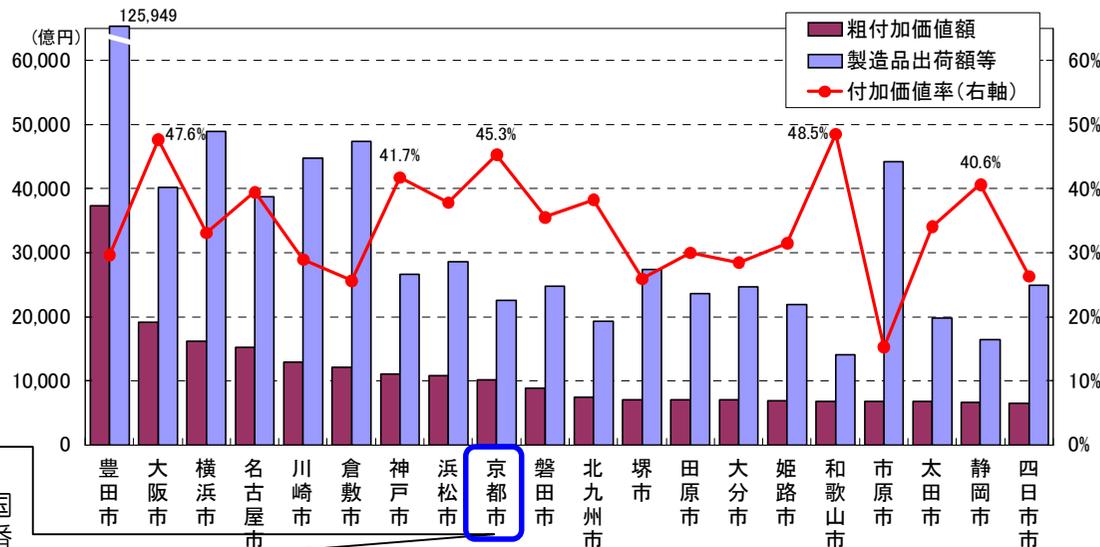
<主な関連計画等>

- ・新京都市産業振興ビジョン (2011-2015) (策定中)
- ・コンテンツビジネス産業振興施策 (策定中)
- ・京都市伝統産業活性化推進計画 (2006-2011)
- ・新農林行政基本方針 (策定中)
- ・京都文化芸術都市創生計画 (2007-2017)

●製造業は、事業所数、従業員数とも減少が進む。



●粗付加価値額上位20市の付加価値額・出荷額・付加価値率(平成18年)



付加価値の高い京都市のものづくり  
京都市の粗付加価値額は全国第9位にある。粗付加価値額で全国20位以内の都市の付加価値率をみると、京都市(45.3%)は3番目となる。



<第1回融合委員会ワークショップ結果>

未来像	重点戦略（政策、施策）	重点戦略（事業）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本,そして世界の人々を魅了する歴史都市,創造都市(京都を訪れたい・京都で学びたい・京都で働きたい・京都で暮らしたい)</li> <li>・ ライフスキルを若者に</li> <li>・ 男女が共に仕事と家庭を両立</li> <li>・ 人が集い,学び・住み・はたらく創造し続ける文化自由都市・京都。伝統と創造の人づくり まちづくり</li> </ul>	<p><b>（産業創出）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 芸術文化を産業に</li> <li>・ 京都で芸術活動を行い,芸術活動が楽しめる条件づくり</li> <li>・ 観光との連携,施設整備,活動支援,海外交流</li> <li>➢ 中長期の施策・プロジェクトを示し,中小企業の投資意欲を引き出し,活性化</li> <li>➢ 雇用は地域活性化につながる</li> </ul> <p><b>（ワーク・ライフバランス）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 短時間労働でも正規社員として働ける労働政策</li> <li>➢ 子育てと雅の文化「ワーク・ライフバランスのとれた社会建設」</li> <li>・ 正規雇用の確保</li> <li>・ 長時間労働規制の強化</li> <li>・ 長時間労働の廃止</li> <li>・ 正規雇用における長時間労働の実態を把握→改善のためのバリアを明らかにする</li> <li>・ モデル事業の実施</li> <li>・ 京都市および京都市関連機関からの実施</li> <li>・ 長時間労働をよしとする文化的概念の是正にむけた改革→モデルの提示等</li> <li>・ 次世代育成法の徹底およびより進んだ条例の制定</li> <li>➢ 待機児童「0」まち「京都」の実現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 保育所,児童館,放課後まなび教室(働いている間の子どもの居場所)</li> </ul>

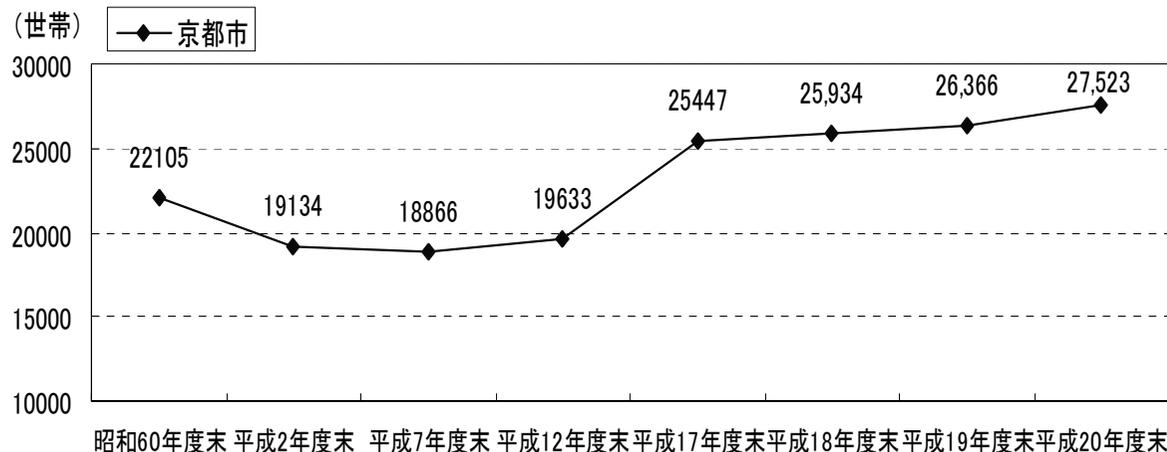
<各種提言・発言>

項目	内容
点検	・もっと若者に夢と希望を ⇒若者のベンチャーや創造活動の応援を
研究会	・交流の場を広げ発展し続ける都市 ～ひと・もの・情報呼び込み、経済を活性化させる～
若者提案	・多様化する雇用形態をふまえ、生き方の選択肢を広げるしくみ

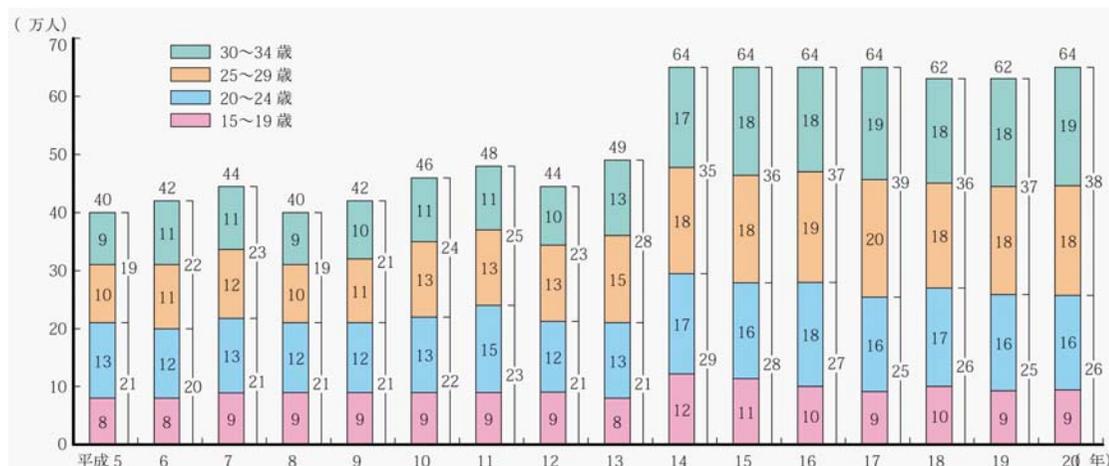
<主な関連計画等>

・第4次きょうと男女共同参画推進プラン（策定中）
--------------------------

●生活保護世帯数の増加が顕著（H20末：27,523世帯）



●若年無業者数の推移（全国）



（注）1 若年無業者について、年齢を15～34歳に限定し、非労働力人口のうち、家事も通学もしていない者として集計。  
 2 15～34歳計は、「15～24歳計」と「25～34歳計」の合計。「15～24歳計」、「25～34歳計」それぞれの内訳については、千人単位を四捨五入しているため合計と合わない。  
 資料：総務省統計局「労働力調査」

<第1回融合委員会ワークショップ結果>

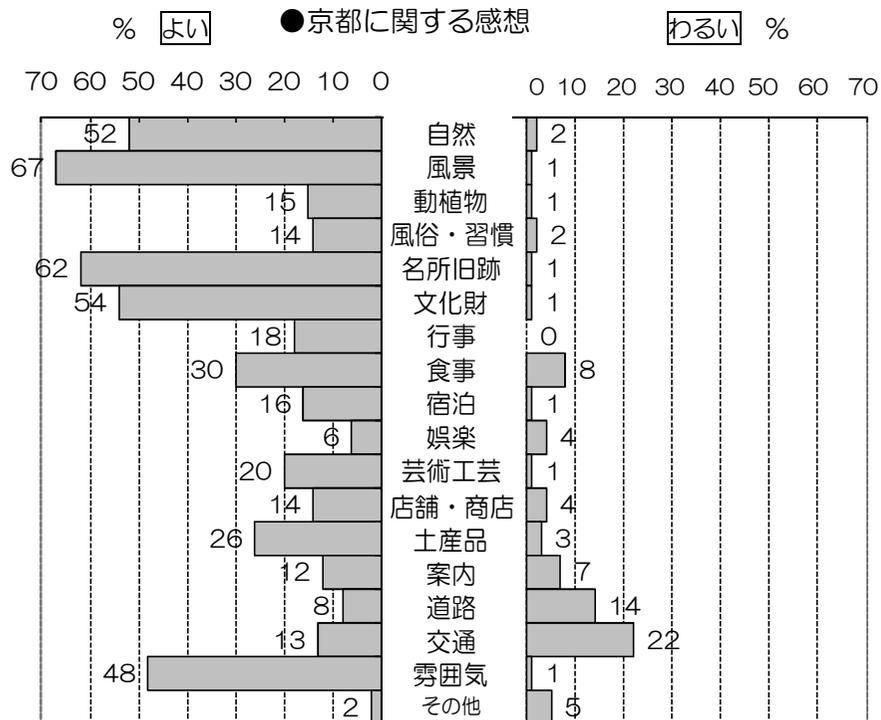
未来像	重点戦略（政策、施策）	重点戦略（事業）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光立国日本の戦略拠点としてのプレミアム観光都市「京都」の実現</li> <li>・国際文化観光都市として成熟した都市へ</li> <li>・住民も観光客も満喫できる京都</li> <li>・観光産業が発展し、市民が参画する低炭素社会</li> <li>・大人が元気に暮らせるまち、住み心地の高い街（文化度だけでなく）、伝統産業、伝統文化を大切にするまち（お金で買えない文化の蓄積）</li> <li>・真の観光都市とは</li> <li>・魅力ある玄関づくり、駅の拠点・ターミナル</li> </ul>	<p><b>（量から質へ）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢観光施策を量から質へ変更（観光業者＋市民＋寺院）</li> <li>⇒行政は市民や事業者の取組のバックアップ</li> <li>➢数だけでなく、質の高い観光施策</li> </ul> <p><b>（コンベンション）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢&lt;融合&gt;学術・産業コンベンションの誘致</li> </ul> <p><b>（芸術文化、体験）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢芸術文化を産業に</li> <li>・京都で芸術活動を行い、芸術活動が楽しめる条件づくり</li> <li>・観光との連携、施設整備、活動支援、海外交流</li> </ul> <p><b>（観光交通）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢車に乗らない観光が得になる条件をつくる</li> <li>➢観光の一番の負のイメージである交通渋滞の解消</li> </ul> <p><b>（推進体制）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢国家戦略としての京都創生へ</li> <li>➢ALL京都での観光サービス向上の取組体制の構築</li> <li>➢市民のおもてなし力を上げる（都人とのふれあい）</li> <li>➢東京一極集中に対峙する情報発信で日本への貢献</li> <li>・マスメディア</li> <li>・観光客 5000 万人に直に伝える</li> </ul>	<p><b>重点戦略（事業）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ホテル・宿泊税等の新たな税収制度の導入</li> <li>➢FIT の積極的なプロモーションの推進</li> <li>➢ラグジュアリー市場への積極的なコミュニケーション戦略の展開</li> <li>➢多様なニーズに応える宿泊施設の整備</li> <li>➢プレミアムデステーションとしての観光コンテンツの充実</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢市民参加による MICE の振興</li> <li>➢会議場、宿泊施設の受入環境の整備 4000～5000 人必要</li> <li>➢積極的な MICE 誘致施策の推進</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢文化財の保存・復興、歴史博物館の建設</li> <li>➢伝統文化の継承・復興。伝統芸能センターの整備</li> <li>➢歴史的景観の保全・整備</li> <li>➢祭礼の復興</li> <li>・“元”のやり方に戻す。例）祇園祭を2回に</li> <li>・祭日は小中学校を休みに</li> <li>・祭の参加について、大学の単位認定</li> <li>→コミュニティ再生、産業再生（伝統）観光につなげる</li> <li>➢修学旅行生のホームステイ</li> <li>➢大学生を重点に展開</li> <li>・入学・下宿先等をプロモートするツアー</li> <li>・京都に住む、働く場合の奨学金返済支援プログラム</li> <li>・夏・冬の休暇期間中の家族型、グループ型、京都産業ツアー</li> <li>➢京都検定から、体験型の京都通認定をして、多様な体験をしてもらう</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢観光地に車を入れない（周遊バス）</li> <li>➢バス・地下鉄でどこへでも誰でも行ける</li> <li>➢自転車も乗れる地下鉄</li> <li>・モデル（赤字対策）</li> <li>➢京（みやこ）パスポート</li> <li>・寺社仏閣</li> <li>・公共交通</li> <li>➢駅、公園</li> <li>➢みちの統合的景観整備</li> <li>➢観光行動拠点</li> <li>➢休憩空間としての駅</li> <li>➢自動車の乗り入れ抑制（CO2 抑制）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢観光教育を通じて京都のすばらしさとおもてなしの心を育む</li> <li>➢子どもたちに社会的な役割を与える</li> <li>・観光案内、ごみ分別、掃除</li> </ul>

<各種提言・発言>

項目	内容
部会	・京都の観光地としての国際的な知名度を上げる必要がある(活①)
研究会	・京都市らしさを活かした環境先進都市 ～環境を機軸に新たな京都型の生活・産業・観光・交通スタイルの開発～
100人	・市民のおもてなし力を向上させる 市民が、京都に今以上の誇りを持ち、その素晴らしさを入浴者(観光客)と分かち合うことを喜びと感ずることで、快適で魅力ある京都、活力ある京都を実現する。 ・城と堀川 二条城と堀川を中心に新しいまちづくりを進め、二条城・堀川・西陣界隈に <町なか観光> <堀川周辺を歩いて巡る観光> など新しい観光の形を定着させて魅力的な観光地とし、さらなる観光客の誘致と地域の活性化を行う。

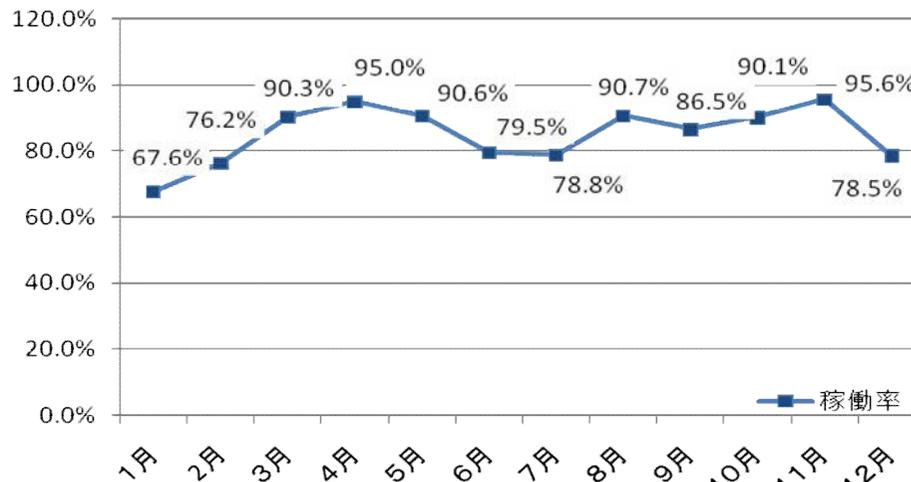
<主な関連計画等>

・次期京都市観光振興推進計画(2010-2014)(策定中)



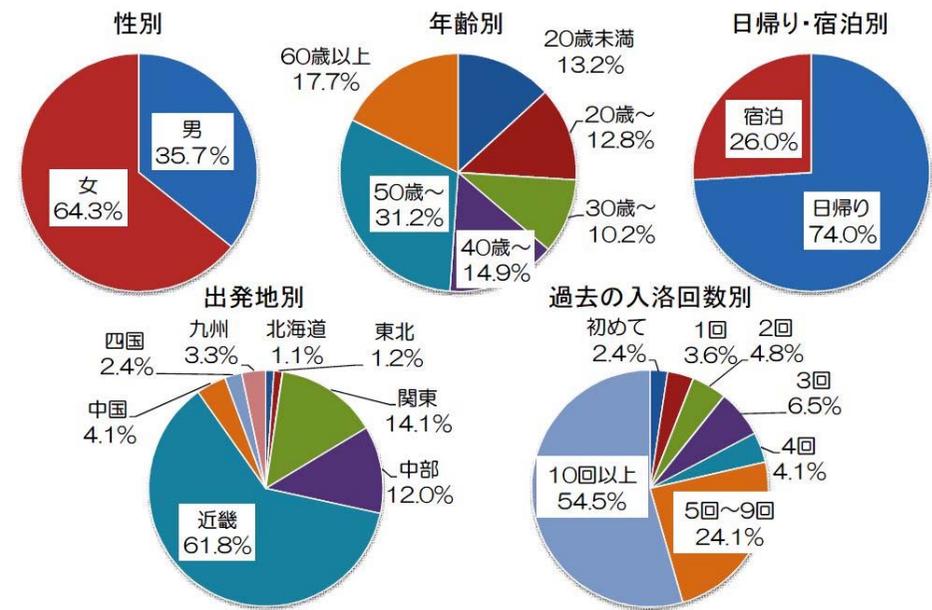
●平成20年京都市内主要ホテル客室稼働実績 16 質の高い観光を提供する

観光シーズンにおける市内主要ホテルの客室稼働率は、90%を超えるほぼ満室の状態、観光客が宿泊施設を確保することが非常に困難



資料：日本ホテル協会京都支部

京都観光の現状 ～入浴観光客の特徴



<第1回融合委員会ワークショップ結果>

未来像	重点戦略（政策、施策）	重点戦略（事業）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際文化観光都市として成熟した都市へ</li> <li>・芸術文化都市</li> <li>・五感で京都らしさを感じるまち</li> <li>・人が集い、学び・住み・はたらく創造し続ける文化自由都市・京都</li> <li>・日本中・世界中から人が集い交流する文化都市</li> <li>・歴史都市（歴史や伝統文化を守り、伝え、育てる）</li> <li>・GHH（グロス、人間、幸福）NO.1の都市（文化を保てる・住んで良かった）</li> <li>・文化が商売になるまち</li> <li>・人を育てるまち、日本文化のまち</li> <li>・大人が元気に暮らせるまち、住み心地度の高い街（文化度だけでなく）、伝統産業、伝統文化を大切にするまち（お金で買えない文化の蓄積）</li> <li>・食農の連携（一次産業）、地産地消</li> <li>・グローバルな視点でリーダーシップが取れる優秀な人材を養成・輩出できる都市づくり</li> </ul>	<p><b>（融合による文化創造）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢多様な京都の個性が元気なまち（大学、企業、宗教施設、文化）</li> <li>➢環境と歴史・文化との融合             <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境：先端技術、工夫された市民生活（ライフスタイル）</li> <li>・歴史：文化：京都ならではの第1級の特長</li> <li>・環境首都、文化首都</li> </ul> </li> <li>➢多文化共生、共助ネットワーク、歴史文化体験</li> </ul> <p><b>（伝統文化、芸術文化）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢国家戦略としての京都創生へ</li> <li>➢徹底した「らしさ」の保存と開発</li> <li>➢京都の伝統文化、伝統産業、伝統芸術をつなぐ体制をつくる</li> <li>➢宗教の説法、哲学の講義に毎日気軽に触れられる</li> <li>➢人々の交流、学びの場、拠り所としての寺院</li> <li>➢芸術文化を産業に             <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都で芸術活動を行い、芸術活動が楽しめる条件づくり</li> <li>・観光との連携、施設整備、活動支援、海外交流</li> </ul> </li> <li>➢&lt;融合&gt;文化芸術振興</li> </ul> <p><b>（生活文化、若者文化）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢生活文化を伝える</li> <li>➢若者文化の創造、発信の拠点と芸術文化のサポート。創作、発表の場やスペースの確保</li> </ul> <p><b>（文化拠点、環境）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢拠点づくり（ex 岡崎、北山 文化ゾーンとして再整備。公共空間、緑、情報）</li> <li>➢歩いてまちのよさを実感（景観、交通、文化、安心安全、にぎわい、バリアフリー、個性豊か）</li> </ul> <p><b>（ひとづくり）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢京都以外では日本文化、工芸などの衰退が激しい。京都だけでも守っていける仕組み⇒人材育成</li> <li>➢グローバル人材育成戦略①             <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都の文化や歴史的なバックグラウンドを理解し、地元の文化に誇りを持ち、責任ある社会人としての行動を心がけることのできる人材を養成する教育環境を初等・中等教育からスタートさせる。</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>重点戦略（事業）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢基本計画で「京都スタイル」な暮らし方モデルを提案</li> <li>➢京都検定から、体験型の京都通認定をして、多様な体験をしてもらう</li> <li>➢わかりやすく合理的な情報発信</li> <li>➢文化の情報発信の集約化</li> </ul> <p><b>➢祭礼の復興</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・“元”のやり方に戻す。例）祇園祭を2回に</li> <li>・祭日は小中学校を休みに</li> <li>・祭の参加について、大学の単位認定</li> </ul> <p>→コミュニティ再生、産業再生（伝統）観光につなげる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢京都府民の日＝7月17日 休日に</li> <li>➢一子相伝のものづくりなど</li> <li>➢「ほんまもん」づくりの継承</li> <li>➢伝統芸能・伝統行事等の担い手育成、門掃き、水まき等の伝承</li> <li>➢手入れをして一生使える道具の提唱</li> </ul> <p><b>➢日本（世界）に誇れる京の食文化（京野菜、日本酒）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢京（みやこ）パスポート             <ul style="list-style-type: none"> <li>・寺社仏閣</li> <li>・公共交通</li> </ul> </li> <li>➢若者文化パスポート（パリの街）</li> </ul> <p><b>➢文化財の保存・復興、歴史博物館の建設</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢伝統文化の継承・復興。伝統芸能センターの整備</li> <li>➢市内の真ん中に「わたしのしごと館」をつくる</li> <li>➢京都のランドマーク・象徴になるものを作る（100年単位で）</li> <li>➢日本人の共同墓（塔？）のデザイン公募</li> <li>➢歴史的景観の保全・整備</li> </ul> <p><b>➢京都の文化を幼い頃より養う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢伝統を支える人たちと若者のふれあい、交流の場の設置</li> <li>➢修学旅行生のホームステイ</li> </ul>

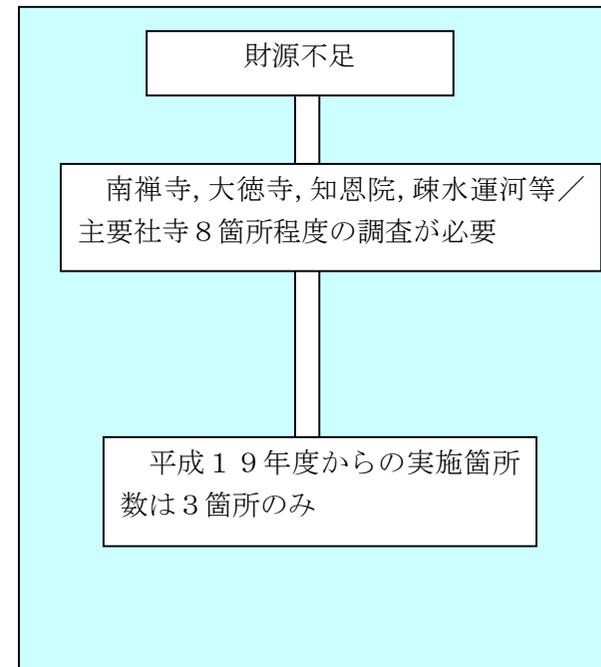
<各種提言・発言>

項目	内容
点検	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと市民の文化力で京都の創生を</li> <li>⇒歴史や景観、文化、伝統を守り育て、国内外に発信する京都創生の推進を</li> <li>⇒文化活動が継続できる持続可能な仕組みを</li> </ul>
研究会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の場を広げ発展し続ける都市</li> <li>～ひと・もの・情報を呼び込み、経済を活性化させる～</li> </ul>

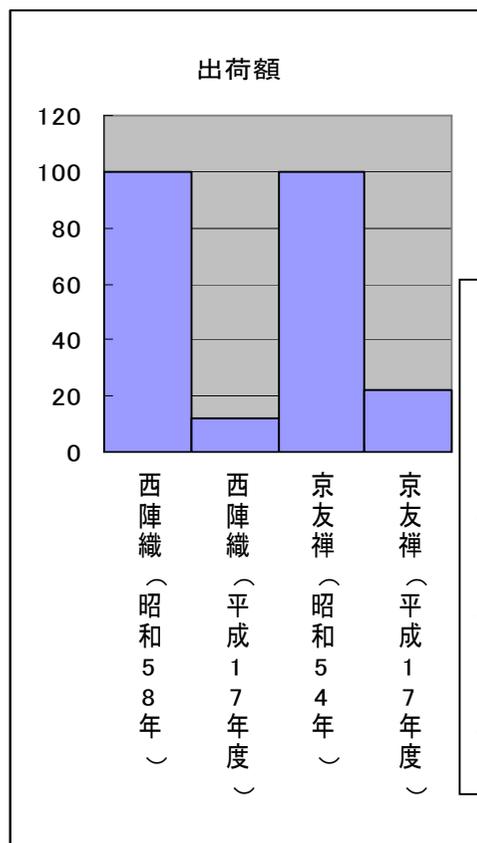
<主な関連計画等>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都市伝統産業活性化推進計画（2006-2011）</li> <li>・京都文化芸術都市創生計画（2007-2017）</li> </ul>
--

●世界遺産登録に向けた文化財調査が遅々として進まない



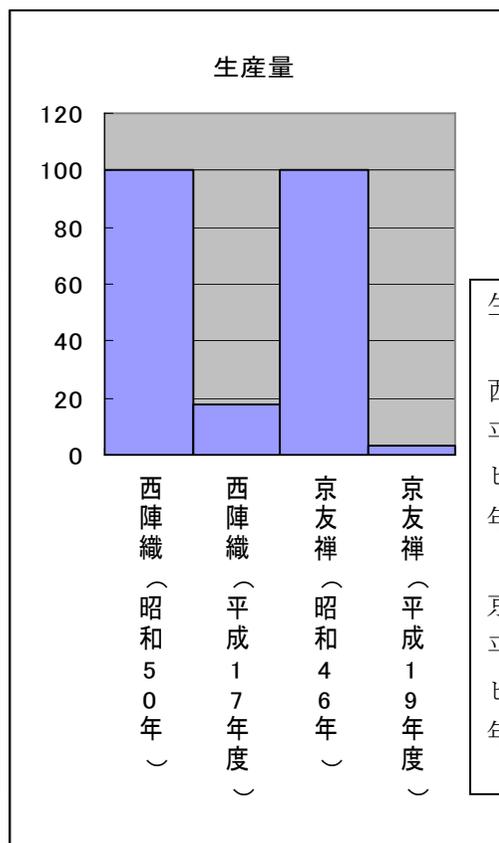
●伝統文化・伝統産業が失われつつある



出荷額

西陣織  
平成17年度には、ピーク時（昭和58年）の12%に

京友禅  
平成17年度には、ピーク時（昭和54年）の22%に



生産量

西陣織  
平成17年度には、ピーク時（昭和50年）の18%に

京友禅  
平成19年度には、ピーク時（昭和46年）の3%に



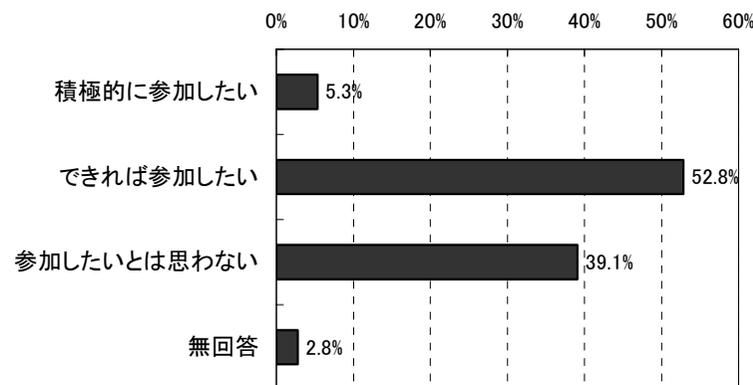
<各種提言・発言>

項目	内容
部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が市政や地域活動に参加する契機となるインパクトのある政策があればよい。(う①)</li> <li>・市民が行政に何をしてもらえるのかではなく、市民が何をできるのかを考えるべき(う①)</li> <li>・これが市民の義務だということを書けば、できるか、できないかを市民が議論し、自覚を持って参画してくるのではないか(う①)</li> <li>・これまで行政の施策はどうしても行政のものであり、市民に分かりにくいことが悩み(活①)</li> <li>・行政には、市民が自ら行動するためのサポートが求められている(活①)</li> </ul>
点検	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと広範な市民参加を ⇒区役所や景観・まちづくりセンターなど市民に身近な市政参加の場の充実を</li> <li>・もっと一緒に考える工夫を ⇒市民ボランティアとの協働を ⇒活字離れ時代に対応し、新たな工夫を ⇒目に見える形でまちづくりの将来像を</li> </ul>
若者提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが無理なく少しだけ努力(1%)する</li> </ul>

●過半数の市民が市政への参加を希望

市民の市政への参加希望としては、「できれば参加したい」が最も多く53%となっており、「積極的に参加したい」の5%を加えると、58%の市民が市政への参加希望があるといえる。

問14 市政への参加希望 <全体>



(1.2万人市民アンケート)

<主な関連計画等>

- ・新京都市市民参加推進計画(策定中)

●市政参加の仕組みや機会が、市民に十分には実感されていない

Q. 市の方針や仕事の内容について、企画段階から市民が意見を言う機会が十分にある。

【平成21年度調査結果】

	回答者数	回答率
a: そう思う	3	0.5%
b: どちらかというと思う	48	8.5%
c: どちらとも言えない	209	37.0%
d: どちらかというと思わない	159	28.1%
e: そう思わない	146	25.8%
有効回答数	565	



「どちらかというと思わない」「そう思わない」の合計が半数を超えて(54%)いる。

資料：平成21年度 京都市市民生活実感調査

<第1回融合委員会ワークショップ結果>

未来像	重点戦略（政策、施策）	重点戦略（事業）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最先端の知にアクセスできるまち</li> <li>・人が集い、学び・住み・はたらく創造し続ける文化自由都市・京都</li> <li>・大学のまち・京都，人材立地</li> <li>・大学都市-全国，世界の若者があこがれる都市</li> <li>・若者の活力を引き出す京都を目指して</li> <li>・京人（みやこびと）が営む</li> <li>・大学の街＝若者の街に</li> <li>・グローバルな視点でリーダーシップが取れる優秀な人材を養成・輩出できる都市づくり</li> <li>・京魂多才都市</li> <li>・革新的な都市づくりの技術と人材の育成</li> <li>・学生のまち（ポスト学生も含む）</li> </ul>	<p><b>（コミュニティ活性化）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢若者文化の創造，発信の拠点と芸術文化のサポート。創作，発表の場やスペースの確保</li> </ul> <p><b>（若者・大学と地域）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢学生→学生市民へ→学生区民へ</li> <li>➢学生，地域の交流</li> <li>➢大学と地域を結びつける，受け皿づくり</li> <li>➢京都第二の故郷構想                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生に「京都学士号」を出し，卒業後もインターネットを介して情報発信，つながりを維持。</li> </ul> </li> <li>➢若者（学生）ちょう（超）兵制度→農林，環境，福祉などに従事する</li> <li>➢学生が地域で活躍できる場をつくり</li> <li>➢学生→京都に引き続き居住する→まちづくりに貢献する機会を</li> </ul> <p><b>（活力，雇用）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢「都市間競争の時代にあって輝きを失わない都市」を促進する                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業立地の先を行く人材立地（リッチ）</li> </ul> </li> <li>➢芸術文化を産業に                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都で芸術活動を行い，芸術活動が楽しめる条件づくり</li> <li>・観光との連携，施設整備，活動支援，海外交流</li> </ul> </li> <li>➢多様な京都の個性が元気なまち（大学，企業，宗教施設，文化）</li> <li>➢研究開発型企業の育成，集積</li> <li>➢ベンチャー企業の創出</li> <li>➢創造的サービス産業の振興</li> <li>➢京都で社会ビジネスを起こそう                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会企業家の育成。コミュニティビジネス，ソーシャルビジネス</li> </ul> </li> </ul> <p><b>（ひとづくり）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢教育の充実，「京都人の育成」</li> <li>➢まちづくり人材を先行投資的に育成する教育プログラム</li> <li>➢大学の連携による新しい技術・人材の育成プラン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢大学生を重点に展開                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学・下宿先等をプロモートするツアー</li> <li>・京都に住む，働く場合の奨学金返済支援プログラム</li> <li>・夏・冬の休暇期間中の家族型，グループ型，京都産業ツアー</li> </ul> </li> <li>➢若者や学生が高齢者住宅にステイ</li> <li>➢大学が市民をギャラリーとして受け入れる</li> <li>➢祭礼の復興                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・祭の参加について，大学の単位認定→コミュニティ再生，産業再生（伝統）観光につなげる</li> </ul> </li> <li>➢起業・就職をもっとサポート</li> </ul>

<各種提言・発言>

項目	内容
部会	・外から来た人、大学生をどう取り込んでいくのか (う①) ・京都は学問のまちとして頭脳が集結しており、伝統を保持しつつこれらを産業につなげるまちであってほしい (ま①)
点検	・もっと若者に夢と希望を ⇒大学のまちである特性を生かし、まちづくりに若者の力を
研究会	・交流の場を広げ発展し続ける都市 ～ひと・もの・情報を呼び込み、経済を活性化させる～
100人	・き・わ・み ～京都・若者・未来の構想～ やりがいや目標とする仕事などを見つけた学生が京都にあふれることで、京都全体が活気に溢れる。
マニフェスト	・日本で一番、若者が地域で活躍できる街にします！ ・やる気ある若手の副業を支援するまち ・学ぶものに優しい学研都市
若者提案	・若手の修行者やアーティストなど、特定の層に絞ったネットワーク作り ・公共空間全てを若者の活躍の場として活用

<主な関連計画等>

- ・新京都市ユースアクションプラン (第3次京都市青少年育成計画) (策定中)
- ・大学のまち京都・学生のまち京都推進計画 (2009-2014)

●大学の学生数が減少している大学生数は減少 (H20: 138,509人)

**【全国・京都市 学生数推移】** (単位: 大学・短期大学数— 校 : 学生数— 人)

		2004年度 (平成16)	2005年度 (平成17)	2006年度 (平成18)	2007年度 (平成19)	2008年度 (平成20)
全国	大学・短期大学数	1,217	1,214	1,212	1,190	1,182
	学生数	3,043,049	3,084,406	3,061,466	3,015,375	3,008,853
京都 市内	大学・短期大学数	38	37	38	37	37
	学生数	138,136	138,431	139,008	138,848	138,509

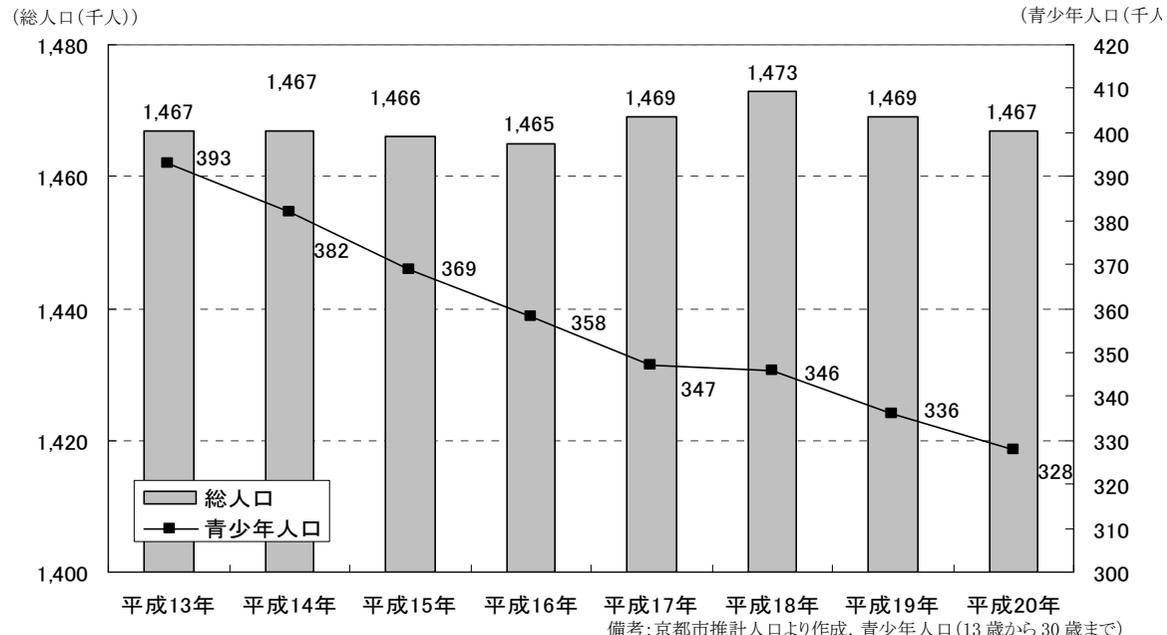
(文部科学省: 学校基本調査)

**【全国私立大学・短期大学入学定員充足率の推移】** (単位: 学校数— 校)

大学	2004年度 (平成16)	2005年度 (平成17)	2006年度 (平成18)	2007年度 (平成19)	2008年度 (平成20)
100%以上の学校数	378	382	329	338	299
50%以上100%未満の学校数	140	143	201	204	237
50%未満の学校数	15	17	20	17	29
(100%未満の割合)	(29.1%)	(29.5%)	(40.2%)	(39.5%)	(47.1%)
合計	533	542	550	559	565

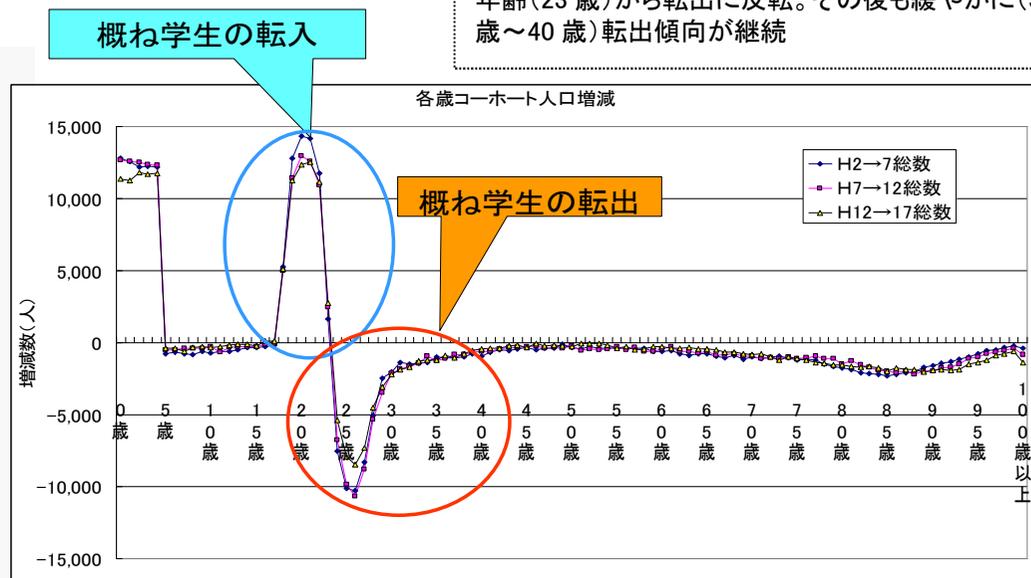
●京都市の青少年の数は年々減少の傾向を続けている

19 大学・若者の力を引き出す



●学生の卒業後の市外流出

大学入学年齢(18歳)を機に転入者が増加し、卒業年齢(23歳)から転出に反転。その後も緩やかに(30歳~40歳)転出傾向が継続



資料: 国勢調査

<第1回融合委員会ワークショップ結果>

未来像	重点戦略（政策、施策）	重点戦略（事業）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 持続可能な低炭素のまち京都</li> <li>・ 多様なサステナビリティを有するまち</li> <li>・ 循環型で環境調和型のまち</li> <li>・ 持続と健康のためのライフスタイル（LOHAS）をつくり出す都市</li> <li>・ グリーンインフラ社会の実現</li> <li>・ 環境NO.1都市</li> <li>・ 環境先進都市（環境先進都市として行動する京都へ、特に交通）</li> <li>・ 食農の連携（一次産業）、地産地消</li> <li>・ 人と環境がやさしい京都</li> <li>・ 国際的な環境モデル都市 京都</li> <li>・ 楽しんでエコロジー</li> <li>・ 歩ける、休めるまち・みちづくり</li> </ul>	<p><b>（京都モデル）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 低炭素社会の京都モデルの創造による世界への貢献</li> <li>➢ 京都市の目標の明示（数値化）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ CO2削減</li> <li>・ 再生可能エネルギーの活用</li> </ul> </li> <li>➢ 環境と歴史・文化との融合                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境：先端技術、工夫された市民生活（ライフスタイル）</li> <li>・ 歴史：文化：京都ならではの第1級の特徴</li> <li>・ 環境首都、文化首都</li> </ul> </li> </ul> <p><b>（大規模排出源）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 大規模排出源対策                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国の政策と地域の政策</li> <li>・ 高付加価値産業</li> </ul> </li> </ul> <p><b>（交通）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 交通                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歩くまち、トランジットモール</li> <li>・ 自転車のなじむまちづくり</li> <li>・ 公共交通機関で行きたいところに予測できる時間で</li> </ul> </li> <li>➢ 歩いてまちのよさを実感（景観、交通、文化、安心安全、にぎわい、バリアフリー、個性豊か）</li> <li>➢ 地下鉄を中心とした交通</li> <li>➢ 交通社会の変化を実施する</li> </ul> <p><b>（生活）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 室内、自動車                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 得になる取組</li> <li>・ 消費者選択</li> <li>・ 貧困者対策</li> <li>・ 家族への施策</li> </ul> </li> <li>➢ 居住、建築物…景観                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共建築物から更新、改修</li> <li>・ 風の通るまちづくり</li> <li>・ 緑のあるまちづくり</li> </ul> </li> <li>➢ 課題の生活化（身近な問題化）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特に環境や景観、観光</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 市内の電気は50%以上自然エネルギーの利用（太陽光、風力）</li> <li>➢ ごみゼロへの挑戦（100%再利用）</li> <li>➢ バス・地下鉄でどこへでも誰でも行ける</li> <li>➢ 市内の交通制限                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間（11～22時）</li> <li>・ エリア（旧市街）</li> <li>・ 車種（電気自動車）</li> </ul> </li> <li>➢ 自動車の乗り入れ抑制（CO2抑制）</li> <li>➢ 共有自転車のまちを推進（自転車シェアリング）</li> <li>➢ 自転車マイレージ</li> <li>➢ グリーンインフラ（街路整備、河川 etc）</li> <li>➢ 街路整備（緑のじゅうたんをひく）</li> <li>➢ 地元食材の利用により、フードマイレージを下げる（CO2を下げる）</li> <li>➢ 日本（世界）に誇れる京の食文化（京野菜、日本酒）</li> <li>➢ 緑地の質的向上（構造的体系の目標化）</li> <li>➢ ごみの仕分けを地域住民のコミュニティビジネスにしていく                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生ごみ処理も</li> </ul> </li> <li>➢ 市民が企画する省エネルギー</li> <li>➢ 環境の取組も幼児期より</li> </ul>

	<p><b>(水・緑地)</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>➢環境←伝統的景観から</li><li>・近郊農業の復興</li><li>・緑化は“農”と“鎮守の森”で十分</li><li>・“庸”</li><li>➢自然環境に囲まれているという立地を大事にする施策推進</li><li>➢水と緑をネットワークし、新御土居構想</li></ul> <p><b>(環境ビジネス)</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>➢環境と経済成長の連鎖を生む</li><li>・低炭素社会化を経済と技術イノベーションで生み出す</li><li>➢京都の食料自給率のUP (CO2を下げる)</li><li>➢先進的なエネルギーシステム</li><li>➢ネットワークの確立</li></ul> <p><b>(市民参加)</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>➢市民参加, NGOの関わり方</li><li>・ひとづくり</li><li>・仕組みづくり</li><li>・実践</li><li>➢京都市民の行動を形にする</li><li>➢若者(学生) ちょう(超)兵制度→農林, 環境, 福祉などに従事する</li><li>➢1%アクションの取組</li><li>➢観光客にも意識させる環境モデルの設置</li></ul>	
--	---	--

<各種提言・発言>

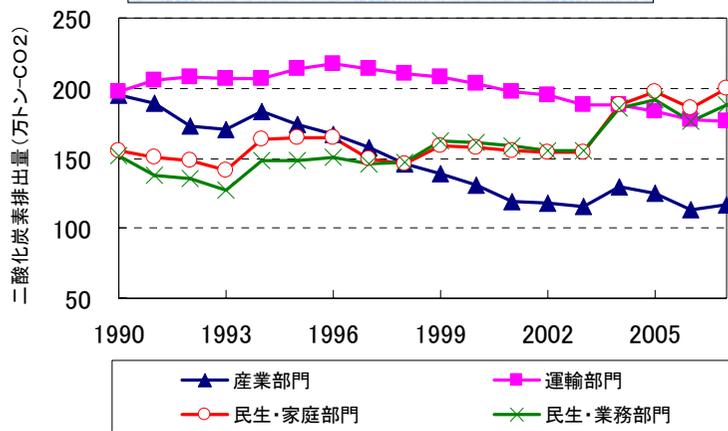
項目	内容
部会	・奥深さがあるから新しいこともやっていけるんだという環境の都市をつくりたい(う①)
点検	・あらゆる政策の基本に「環境」の視点を
研究会	・京都らしさを活かした環境先進都市 ～環境を機軸に新たな京都型の生活・産業・観光・交通スタイルの開発～
100人	・山紫水明の京都 市民が「山紫水明」に触れ、考え、行動する機会を創出する。
マニフェスト	・緑と緑を愛する人で溢れるまち

<主な関連計画等>

- ・「環境にやさしいライフスタイルを考える市民会議」提言(策定中)
- ・京(みやこ)の環境共生推進計画(-2015)
- ・京都市環境モデル都市行動計画(-2050)
- ・新京都市地球温暖化対策計画(2010-2020)(策定中)
- ・京都市一般廃棄物(ごみ)処理基本構想
- ・新京都市循環型社会推進基本計画(2010-2014)(策定中)
- ・新京都市緑の基本計画(2010-2025)(策定中)

●民生部門の削減が課題

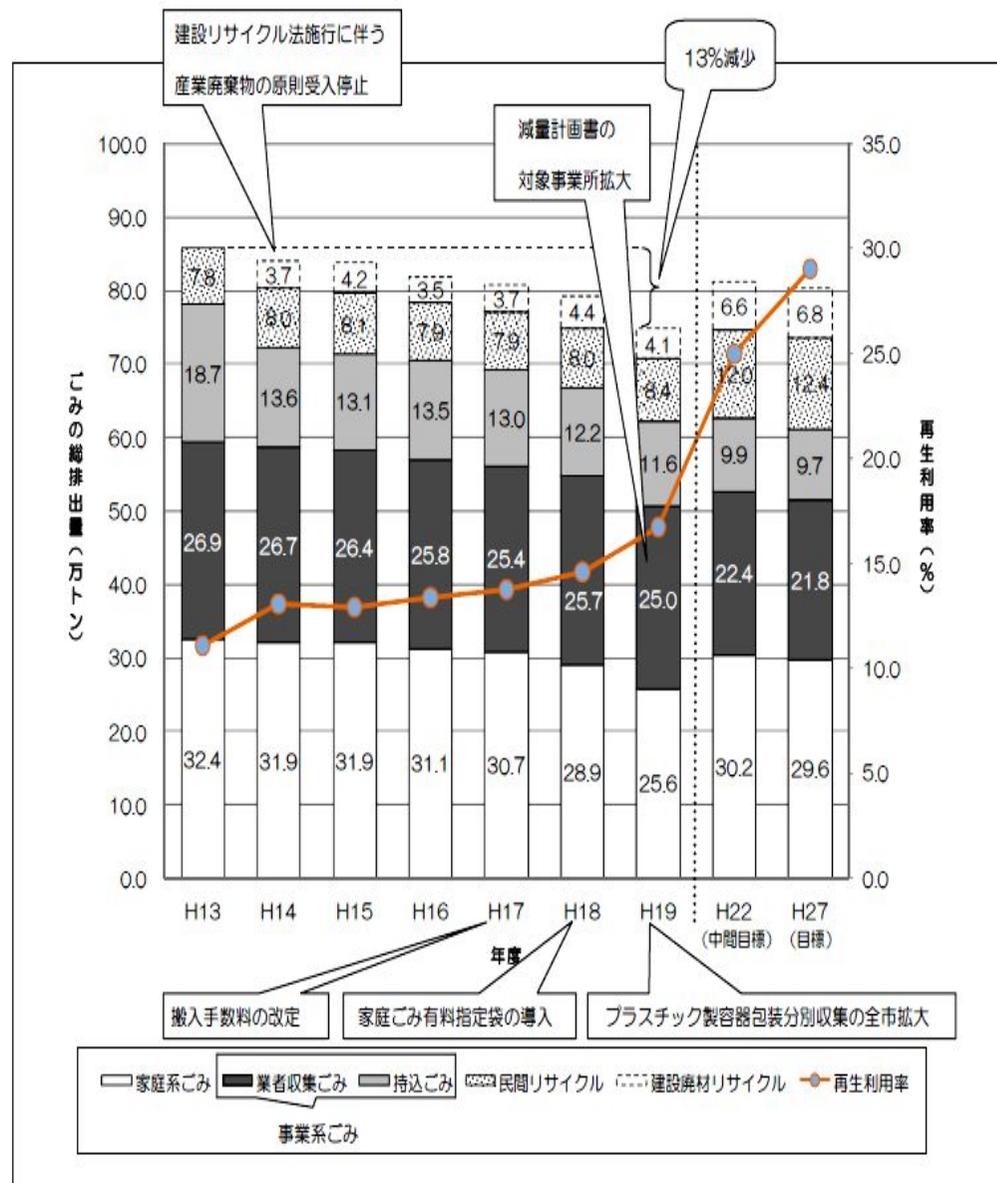
主な部門別二酸化炭素排出量の推移



- 産業部門 :大幅減少(基準年比-40%)
- 運輸部門 :やや減少(基準年比-11%)
- 民生・家庭部門:大幅増加(基準年比+29%)
- 民生・業務部門:大幅増加(基準年比+24%)

20 持続可能な低炭素のまちにする

●家庭のごみに比べ事業系ごみの減量が進んでいない。



「新京都市循環型社会推進基本計画(仮称)策定に向けた提言について」中間まとめ



<第1回融合委員会ワークショップ結果>

未来像	重点戦略（政策、施策）	重点戦略（事業）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様なサステナビリティを有するまち</li> <li>・京（みやこ）流コンパクトシティ</li> <li>・地球にやさしい公共交通優先の歩いて楽しいまちづくり</li> <li>・歩いて楽しいまち</li> <li>・老若男女国籍を問わず歩きやすいまちに</li> <li>・環境先進都市（環境先進都市として行動する京都へ、特に交通）</li> <li>・人と環境がやさしい京都</li> <li>・魅力ある玄関づくり，駅の拠点・ターミナル</li> </ul>	<p><b>（公共交通）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢地下鉄を中心とした交通</li> <li>➢交通                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩くまち，トランジットモール</li> <li>・自転車のなじむまちづくり</li> <li>・公共交通機関で行きたいところに予測できる時間で</li> </ul> </li> <li>➢ネットワークの確立</li> </ul> <p><b>（歩きやすい環境）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢人にやさしい歩きやすい街路整備</li> <li>➢歩いてまちのよさを実感（景観，交通，文化，安心安全，にぎわい，バリアフリー，個性豊か）</li> <li>➢交流する場所づくり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・それを結ぶ動線の充実 例）交通手段，道</li> </ul> </li> </ul> <p><b>（車の抑制）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢車に乗らない観光が得になる条件をつくる</li> <li>➢観光の一番の負のイメージである交通渋滞の解消</li> <li>➢自動車に不便なまち。自転車利用促進。歩くことで，生活習慣の変更</li> <li>➢観光客にも意識させる環境モデルの設置</li> </ul> <p><b>（交通インフラ整備，活用）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢広域的な社会資本整備                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道，道路，空港，港湾などへのアクセス</li> </ul> </li> <li>➢インフラの徹底的な活用                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通インフラの徹底的な活用</li> <li>・もし，交通インフラがなかったらどうなる？</li> </ul> </li> <li>➢駅周辺の活性化</li> </ul>	<p><b>重点戦略（事業）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢公共交通機関インフラ大改造（公共交通無料）</li> <li>➢地下鉄の民間委託・東西線は京阪に，南北線は近鉄に</li> <li>➢バス・地下鉄でどこへでも誰でも行ける</li> <li>➢自転車も乗れる地下鉄                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル（赤字対策）</li> </ul> </li> <li>➢京（みやこ）パスポート                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・寺社仏閣</li> <li>・公共交通</li> </ul> </li> </ul> <p>➢交差点座標化</p> <p>➢みちの統合的景観整備</p> <p>➢広場</p> <p>➢駅，公園</p> <p>➢交通手段の整理（空間整理，バス停）</p> <p>➢交通行動のスムーズ化（サイン計画，情報）</p> <p>➢観光行動拠点</p> <p>➢共有自転車のまちを推進（自転車シェアリング）</p> <p>➢自転車マイレージ</p> <p>➢自動車の乗り入れ抑制（CO2抑制）</p> <p>➢市内の交通制限                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間（11～22時）</li> <li>・エリア（旧市街）</li> <li>・車種（電気自動車）</li> </ul> </p> <p>➢本当に機能するパークアンドライド</p> <p>➢観光地に車を入れない（周遊バス）</p>

<各種提言・発言>

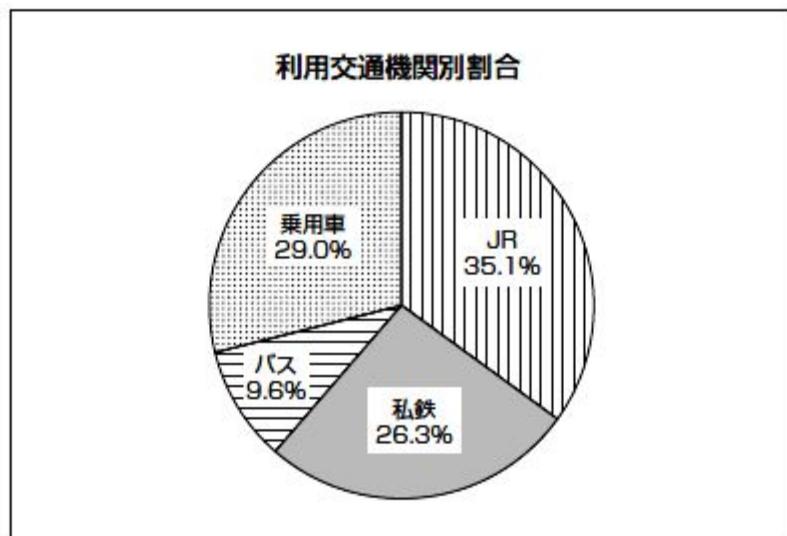
2-1 歩いて楽しむまちにする

項目	内容
点検	・もっと市全体の交通システムの整備を ⇒交通需要管理施策（TDM）の推進を ⇒「歩いて楽しいまちなか戦略」の実現を
研究会	・京都らしさを活かした環境先進都市 ～環境を機軸に新たな京都型の生活・産業・観光・交通スタイルの開発～
100人	・歩きやすい道 「歩こう」と思える京都のまち そのような「歩きやすい道」を獲得するために市民ができること ・のりもの 安全で快適な交通環境をつくる。更なる環境良化をはかる。交通財政の健全化をはかる。

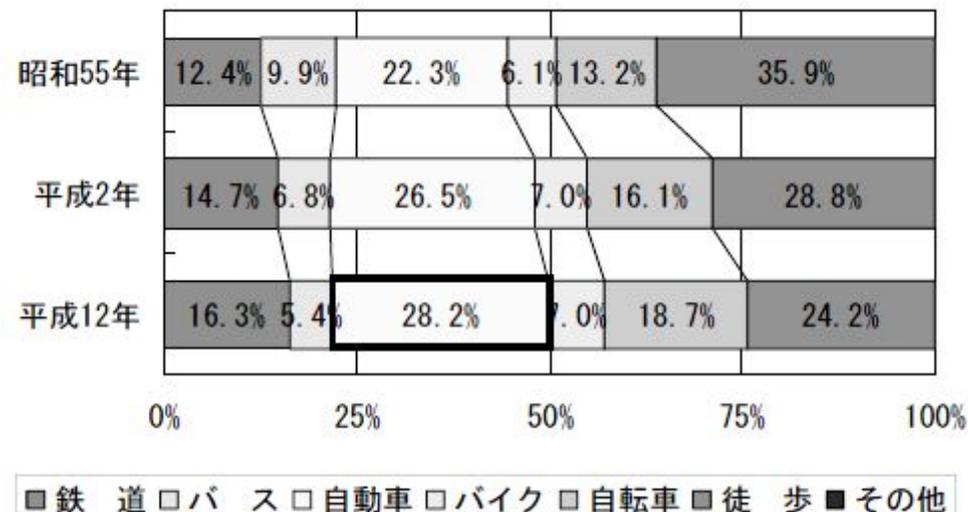
<主な関連計画等>

・「歩くまち・京都」総合交通戦略（策定中）

- 観光客の29.0%が乗用車で入洛



- 交通手段分担状況は自動車の分担率が増加（H12：28.2%）し、バスと徒歩が減少



※構成比については単位未満を四捨五入しているため、総数と内訳の合計が必ずしも一致しない。

（資料）第4回京阪神都市圏パーソントリップ調査（PT調査）

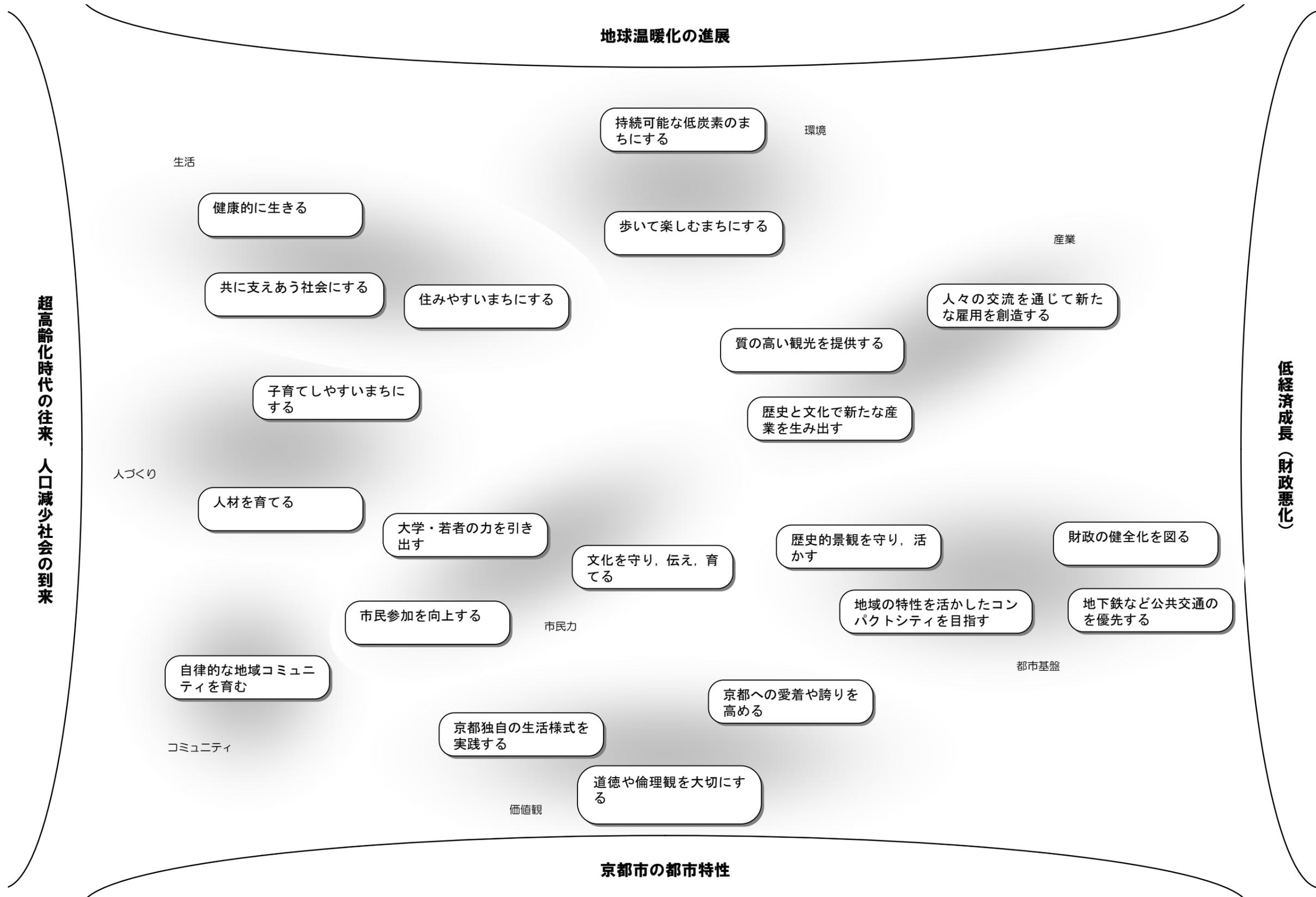
図 6-1 京都市における交通手段分担

第1回融合委員会WSの結果のまとめ（キーワードによるグルーピング）

外的要因	価値観	カテゴリー	未来像のキーワード
		価値観	道徳や倫理観を大切に 京都への愛着や誇りを高める
		価値観	京都独自の生活様式を 実践する
	生活	生活	住みやすいまちにする
		生活	健康的に生きる
		生活	共に支えあう社会にする
人づくり	人づくり	子育てしやすいまちにする	
	人づくり	人材を育てる	
超高齢社会の到来	地域社会	地域社会	自律的な地域コミュニティを育む
	都市基盤	都市基盤	地域の特性を活かしたコンパクトシティを目指す
		都市基盤	歴史的景観を守り、活かす
		都市基盤	財政の健全化を図る
人口減少社会の到来	産業	産業	歴史と文化で新たな産業を生み出す
		産業	人々の交流を通じて新たな雇用を創造する
		産業	質の高い観光を提供する
低経済成長（財政悪化）	市民力	市民力	文化を守り、伝え、育てる
		市民力	市民参加を向上する
		市民力	大学・若者の力を引き出す
環境	環境	環境	持続可能な低炭素のまちにする
	環境	環境	歩いて楽しむまちにする

第1回融合委員会ワークショップの結果(未来像)※欠席された融合委員会委員の意見を含む。		部会, 研究会, 100人委員会	データ
1	他の生き物の暮らしに学ぶ京都。宗教都市（宗教の教えを日常生活に息づかせる）。京人（みやこびと）が営む。	※道徳・倫理観, 宗教的な教えが日常生活から失われつつある	
2	「誇りの持てる社会」。京都ブランドをはがしても誇りを持てるまち。京都に愛着や誇りを持てる市民であふれる。担い手がもう少し広がった京都。	※京都に住む人が京都に興味がないのでは	
3	「京都スタイル」な暮らし方を発信・実践する都市。京都の多様性を活かした町づくり。日本, そして世界の人々を魅了する歴史都市, 創造都市(京都を訪れたい・京都で学びたい・京都で働きたい・京都で暮らしたい)。1200年が見えるまち(過去の遺産を生かす, 歴史がみえる形に)。日本のふるさと京都を世界に発信。京都に愛着や誇りを持てる市民であふれる。世界文化自由都市一やすらぎのある, 華やきのある, 訪れてよし, 住んでよしの京都。大人が元気に暮らせるまち, 住み心地度の高い街(文化度だけでなく), 伝統産業, 伝統文化を大切にすまち(お金で買えない文化の蓄積)。京人(みやこびと)が営む。	※職住接近, 本当の京都を見直していくべき, 他の都市の垂流になり魅力がなくなってしまう	
4	いつまでも住みつづけたいと思える地域づくり。ノーマライゼーション発展型まちづくり。人にやさしくぬくもりと活力のある都市。	◎人をつなぐ福祉のコミュニティ	3(身体・知的・精神)障害全てが年々増加
5	多子健康長寿都市「京都」 持続と健康のためのライフスタイル(LOHAS)をつくり出す都市	※若い人のエネルギーと年寄りの知恵を融合, ○もっと安心して健康に(4,6,7)	がんによる人口当たりの死亡率は政令市第7位
6	多子健康長寿都市「京都」。子どもから高齢者まで世代を超えた日常交流のある地域づくり。80歳を越えても元気に楽しく働ける都市京都。生涯安住の都市。高齢者と若者のつながりが深いまち。年齢, 人種を越えた心温まる京都の街。人とのつながりに安らぐ京都。	◇誰もがすべてのライフステージを楽しめるまち(7,8)	老年人口比率(65歳以上)2.9%
7	子育てしやすいまち(将来に希望が持てるまち)。「子育ては“ブランク”ではなく“スキル”である」という意識。多子健康長寿都市「京都」。子育てしやすく, 京の雅を味わえる生活。男女が共に仕事と家庭を両立。楽しんで子育てできるまち。子育ても孤立させない地域社会 京都。子ども達が輝く将来を描くことのできる京都。京人(みやこびと)が営む。美・伝統・芸術を創造する都市。	※都市経営上, 子どもの少なさが一番の課題, ○もっと生み育てなくなる京都に, ◎京都にこわく,	京都市審議会等の女性委員登用率30%前後。合計特殊出生率:1.14
8	いつまでも住みつづけたいと思える地域づくり。日本, そして世界の人々を魅了する歴史都市, 創造都市(京都を訪れたい・京都で学びたい・京都で働きたい・京都で暮らしたい)。学生が逃げない京都。国内外から人々が集い住み続けるまち 京都。人を育てるまち, 日本文化のまち。開かれた共同が実践されるまち。京都=修行ができる, 自分が高められる。	◎きわみ(京都・若者・未来の構想)	年間2千人前後の転出超過
9	年齢, 人種を越えた心温まる京都の街。地域で生き延びる力。「包み込む社会」地域コミュニティの21世紀型再建。子どもから高齢者まで世代を超えた日常交流のある地域づくり。多様な主体(市民, 企業, 行政)が地域社会の問題解決に取り組む『共助』の京都。地域の個性がキラリと輝いているまち。人が優しいまち・支えあうまち~地域力と人間力の向上。ただいま都市。若者の活力を引き出す京都を目指して。大人が元気に暮らせるまち, 住み心地度の高い街(文化度だけでなく), 伝統産業, 伝統文化を大切にすまち(お金で買えない文化の蓄積)。若者の活力を引き出す京都を目指して。人と環境がやさしい京都。自治のまち京都。	○もっと広範な市民参加を(18), ◇助け合う地域, 見守る社会, 住み続けたい京都, ◎まちづくりは人づくりから	世帯当り人員:2.19
10	京都の特性に付加価値を加える「地域プロジェクト」による活力創造のまち 京(みやこ)流コンパクトシティ。日本中・世界中から人が集い交流する文化都市	○もっと産業・まちづくりに活力を, ◎岡崎ホールディングス, 山紫水明の京都, 城と堀川	郊外区で人口減少, 都心区は高齢化
11	五感で京都らしさを感じるまち。街全体を世界遺産に。都市の遺産を守り抜く美しく風格のあるまちづくり・ひとづくり・ものづくり。平安から現代までの歴史が体现できる都市。経済と景観の両立。美しい町・人・景観。国際的な環境モデル都市 京都。	◎市民の景観	京町家等の伝統的建造物が毎年2%消失
12	財政の健全化, 生涯安住の都市, 市役所からCity Hallへ。行財政改革における支出削減だけでなく, 収入を増やす視点も必要。	○もっと市民と行政がともに拓く新時代へ, ◎京都の無駄を斬る六人の侍	連結実質赤字比率8.63%
13	地下鉄に乗ろう・環境-経営-健康-観光。地球にやさしい公共交通優先の歩いて楽しいまちづくり。京(みやこ)流コンパクトシティ。財政の健全化	○もっと市全体の交通システムの整備を(21), ◎のりもの	地下鉄事業の1日当りの赤字は4,300万円
14	日本, そして世界の人々を魅了する歴史都市, 創造都市(京都を訪れたい・京都で学びたい・京都で働きたい・京都で暮らしたい)。人が集い, 学び・住み・はたらく創造し続ける文化自由都市・京都。創造的産業都市。文化と産業の融合都市, 観光産業が発展し, 市民が参画する低炭素社会。新文明開化(アジア戦略と新成長経済)。時代をリードする産業や企業を育成, 振興する。国家, 関西, 京都府などのビジョンとの整合性を図り, それらの中で京都市を位置づける広域的視点が必要		ピーク時に比べ, 製造品出荷額は約69%, 事業所数は43%
15	日本, そして世界の人々を魅了する歴史都市, 創造都市(京都を訪れたい・京都で学びたい・京都で働きたい・京都で暮らしたい)。ライフスキルを若者に。男女が共に仕事と家庭を両立。人が集い, 学び・住み・はたらく創造し続ける文化自由都市・京都。伝統と創造の人づくり まちづくり。	◇交流の場を広げ発展し続ける都市(14,17,19)	生活保護世帯数:27,523世帯
16	観光立国日本の戦略拠点としてのプレミアム観光都市「京都」の実現。国際文化観光都市として成熟した都市へ。住民も観光客も満喫できる京都。観光産業が発展し, 市民が参画する低炭素社会。大人が元気に暮らせるまち, 住み心地度の高い街(文化度だけでなく), 伝統産業, 伝統文化を大切にすまち(お金で買えない文化の蓄積)。真の観光都市とは。魅力ある玄関づくり, 駅の拠点・ターミナル。	◎市民のおもてなし力を向上	京都経済への貢献度:8.4%
17	国際文化観光都市として成熟した都市へ。芸術文化都市。五感で京都らしさを感じるまち。人が集い, 学び・住み・はたらく創造し続ける文化自由都市・京都。日本中・世界中から人が集い交流する文化都市。歴史都市(歴史や伝統文化を守り, 伝え, 育てる)。GHH(グロス, 人間, 幸福)NO.1の都市(文化を育てる・住んで良かった)。文化が商売になるまち。人を育てるまち, 日本文化のまち。大人が元気に暮らせるまち, 住み心地度の高い街(文化度だけでなく), 伝統産業, 伝統文化を大切にすまち(お金で買えない文化の蓄積)。食農の連携(一次産業), 地産地消。グローバルな視点でリーダーシップが取れる優秀な人材を養成・輩出できる都市づくり	○もっと市民の文化力で京都の創生を(14), ◎DVS	生産量はピーク時の18%(西陣織:H17), 3%(京友禅:H19)
18	市役所からCity Hallへ。本物の市民参加のまち。市民が市政にもっと深い関心もてる社会。個人を主人公とした情報開示都市京都。	○もっと一緒に考える工夫を	市政の企画段階から意見を言う機会が不十分:54%
19	最先端の知にアクセスできるまち。人が集い, 学び・住み・はたらく創造し続ける文化自由都市・京都。大学のまち・京都, 人材立地。大学都市。全国, 世界の若者があこがれる都市。若者の活力を引き出す京都を目指して。京人(みやこびと)が営む。大学の街=若者の街に。グローバルな視点でリーダーシップが取れる優秀な人材を養成・輩出できる都市づくり。京魂多才都市。革新的な都市づくりの技術と人材の育成。学生のまち(ポスト学生も含む)	○もっと若者に夢と希望を(8,15)	大学生数は減少(H20:138,509人)
20	持続可能な低炭素のまち京都。多様なサステナビリティを有するまち。循環型で環境調和型のまち。持続と健康のためのライフスタイル(LOHAS)をつくり出す都市。グリーンインフラ社会の実現。環境NO.1都市。環境先進都市(環境先進都市として行動する京都へ, 特に交通)。食農の連携(一次産業), 地産地消。人と環境がやさしい京都。国際的な環境モデル都市 京都。楽しんでエコロジー。歩ける, 休めるまち・みちづくり。	◇京都らしさを活かした環境先進都市(21)	温室効果ガス排出量は基準年より4.8%減少だが目標達成は厳しい
21	多様なサステナビリティを有するまち。京(みやこ)流コンパクトシティ。地球にやさしい公共交通優先の歩いて楽しいまちづくり。歩いて楽しいまち。老若男女国籍を問わず歩きやすいまちに。環境先進都市(環境先進都市として行動する京都へ, 特に交通)。人と環境がやさしい京都。魅力ある玄関づくり, 駅の拠点・ターミナル。	◎歩きやすい道	観光客3割が乗用車で入浴。自動車の分担率増加:28.2%

凡例 ※共汗部会での発言, ○京都市基本計画点検結果報告書のこれからの重点テーマと方策, ◇未来の京都創造研究会報告書の未来像, ◎京都市未来まちづくり100人委員会からの提案。(番号)は, 関連する未来像のキーワード番号



共汗部会における主な発言（抜粋）

第1回 共汗部会

うるおい（10／27）

- ・ あらゆる検討項目において未来を担う子どもたちへの働きかけを行うような方法が必要（子育て）
- ・ 市民参加を語るときに市民活動、地域の自立を無視しては進められない（コミュニティ）
- ・ あまりお金を使わずに皆で知恵を出し合ってやっていけることを考えることが必要（財政健全化）
- ・ 市民が市政や地域活動に参加する契機となるインパクトのある政策があればよい。（市民参加）
- ・ 市民が行政に何をしてもらえるのかではなく、市民が何をできるのかを考えるべき（市民参加）
- ・ これが市民の義務だということを書けば、できるか、できないかを市民が議論し、自覚を持って参画してくるのではないかと（市民参加）
- 外から来た人、大学生をどう取り込んでいくのか（大学・若者）
- ・ 奥深さがあるから新しいこともやっていけるんだという環境の都市をつくりたい（持続可能）

すこやか（10／29）

- ・ 自助の拡大という言葉があるが、個人で解決できない問題が広がっている（住みやすさ）
- ・ 障害者や認知症の方への詐欺など社会のせこさがあるなかで、京都から進んだ提言を（住みやすさ）
- ・ 生活習慣病関連の医療費削減が課題（健康）
- ・ うつ病が非常に増えている（健康）
- ・ 都市経営を考えるうえで、子供の少なさが一番の課題（子育て）
- ・ 子どもたちもひ弱になっている（子育て）
- ・ 自分で道を切り拓く、夢のあるひとづくりを教育の中で実現できないか。（人材）
- ・ 今の親世代は「家族」が優先で、次が「地域」となっている（コミュニティ）

活性化（11／6）

- ・ 「京都っぽく」なっているが、大事な京都の部分がないようになってきている。（道徳・倫理観）
- ・ 京都の企業が本社を移さないのは、環境や伝統など、京都というバックグラウンドが企業に人を惹きつける鍵だから（愛着・誇り）
- ・ 京都人が京都のことを知らないといわれるが、実は京都に住む人が京都に興味がないのではないかと（愛着・誇り）
- 京言葉など、京都のことを小中学生に教えることが、京都の魅力につながる。ユニークな教育が必要（愛着・誇り）
- ・ このまま便利になっていくと、他の都市の亜流になる。「何でも便利に」では逆にそっぽを向かれる（愛着・誇り）
- ・ 若い人のエネルギーと年寄りの知恵を融合する姿勢が大切（支えあう社会）
- ・ 活性化とは人が集まること。京都で仕事をしたい方を集める仕掛けが必要（人材）
- ・ 伝統行事の担い手の世代交代ができていない（コミュニティ）
- ・ 京都市というまちのサイズでできることとして職住接近を（コンパクトシティ）
- ・ 観光地としての国際的な知名度を上げる必要（観光）
- ・ これまで行政施策は行政のものであり、市民に分かりにくいことが悩み（市民参加）
- ・ 行政は、市民が自ら行動するためのサポートを（市民参加）

まちづくり（11／2）

- ・ 京都は広い裏道もなく震災が起こると大きな被害が出る（コンパクトシティ）
- ・ 山間地域について議論すべき（コンパクトシティ）
- ・ 都市インフラの整備だけでなく、運用に市民が関わる方向に進めたらよい（コンパクトシティ）
- ・ 町家のような地域資源をどう市民、行政が活用していくのか（景観）
- ・ 公共交通は赤字であることを前提に、どう市民の足を確保するのかということを考えていくことも大切（公共交通）
- ・ 歴史、文化に優れたまちという特色を活かせれば（産業）
- 京都は学問のまちとして頭脳が集結しており、伝統を保持しつつこれらを産業につなげるまちであってほしい（大学・若者）

第2回 共汗部会 （注） 摘録未定稿からの抜粋

うるおい（12／15）（文化・スポーツ）

- ・ 子どもを安全・安心な育成のため、自治体、学校、地域、競技団体、企業のネットワークが大切（健康）
- ・ 文化やスポーツへのサポートのルールが大切（健康）
- ・ 京都への誇りを持つには、小さい頃から文化や伝統行事を体験し感動する取組が必要（文化）
- ・ スポーツは心身ともに健全な人間をつくる。学校体育の場のスポーツを大切に（健康）
- ・ よい伝統は続けると同時に、残してよいか疑問なものは議論を尽くすべき（文化）
- ・ 文化、スポーツがプライオリティを下げないように、「事業仕上げ論」で光るものを出していくべき（文化）
- ・ スポーツと環境の連携。例えば「走るまち」（健康）
- 町家など、場と連動した暮らしは本物（文化）
- ・ 京都で100年後に残るものをつくれているか（文化）
- 家庭でレトルト食品が増えており食文化について真剣に考えねば（健康）
- ・ 人間はままたないことを学ぶことが大事。素晴らしい結果が出ない時もある（道徳・倫理）
- ・ 地域ごとに市の窓口を一本化すれば、地域が各分野をバラバラに語らずに済む（コミュニティ）

すこやか（12／17）（保健医療・子育て支援）

- ・ 京野菜・京料理など優れた食文化を生かした食育（健康）
- ・ 健康とは、病気になった時に、のびのびと病気になるということ（健康）
- ・ 医師の数が全国トップである強みを生かす（健康）
- ・ よりよく生きるために「死」を見つめ、考え続けるという教育を取り戻す（健康）
- ・ 人類が数千年言い続けてきた「殺すな」「盗むな」「嘘を言うな」が子育ての問題として大切（子育て）
- ・ 「ほっとできる家庭」「遊べる子ども」（子育て）
- ・ 子育てを大人・老人育ちとセットで（子育て）
- ・ ワーク・ライフ・バランスのとれたよいモデルが必要（子育て）
- ・ 子どもたちに冒険や探索がなければ、自立の方向には育っていかない（子育て）
- ・ 父親が子育てに関わることで家族の絆ができ安心して子育てが進められる（子育て）
- ・ 家族、地域で各世代がネットワークを作り、子育て・子育て支援（子育て）

活性化（12／15）（観光・大学・国際化）

- ・ 市民もおもてなし力を高める（観光）
- ・ 世界、アジア、国内、関西における役割発揮（観光）
- ・ 市民全てがコンシェルジュの質の高い観光都市（観光）
- ・ ライフスタイルに関わる産業は京都の得意技。観光はその総合的な成果（観光）
- ・ 京料理は器も良い。集客できる公共施設整備（観光）
- ・ ディープ京都と呼べる面白い観光が難しい（観光）
- ・ 子どもたちに京都の魅力を教育していく（愛着・誇り）
- ・ 世界各都市でシビックプライドがキーワード（愛着・誇り）
- ・ 広域観光をリードするのが京都（観光）
- ・ 京都市民の生活の場の景観の維持を（景観）
- ・ 景観を悪くする法律しかない問題にメスを（景観）
- ・ 学生が寺社仏閣や歌舞伎などを安く見られれば京都に在ることへのプレミアムになる（大学・若者）
- ・ 学生の生活環境が劣悪では意味がない（大学・若者）
- ・ 短期留学生がリピーターになる、長期留学生が京都市民として誇りを持つという観点が必要（国際化）
- ・ 世界歴史都市会議のリーダーとしてアピール発信を（国際化）
- ・ 国際化に折角の姉妹都市を活かす（国際化）
- ・ 日本が世界に誇る文化芸術祭典を京都で（国際化）

まちづくり（12／21）（都市づくり・景観）

- 計画の推進に必要なものは、財力・組織力・公衆力（財政健全化・市民参加）
- ・ 広域・都市・生活圏の各層に分けて重層的な都市構造を明らかにする必要（コンパクトシティ）
- ・ コンパクトシティとして、駅周辺のポテンシャルを高め、自動車分担率を下げる都市構造（コンパクトシティ）
- ・ 低成長時代にどのような土地利用を誘発していくかのビジョンが必要（コンパクトシティ）
- ・ まちづくりにおける京都ブランドの意味を明確に（景観）
- ・ 心の中の京都のイメージと実態の乖離が大きいなかで、京都らしさをどう再生するか（景観）
- ・ 全国をリードする新景観政策を、さらに市民をリードする新景観政策に（景観）
- ・ 地域で景観ルールを作っていく仕組みの強化を（景観）
- 地域性や景観を考慮した環境政策が重要（景観）
- ・ 公共建築の総合的ファシリティーマネジメントを（財政）
- ・ まちづくりのパワーを持つ人々のエンパワメント（人材）
- ・ 景観について保全だけでなく活力の視点も必要（景観）

# 未来の担い手・若者会議U35 からの提案について(報告)

---

未来の担い手・若者会議U35議長  
妙心寺退蔵院副住職 松山 大耕

# 1 未来の担い手・若者会議U35について

---

- ① 概ね35歳未満の若者26名で構成。9月24日に設置
  - ② 6つのユニットに分かれ、若者ならではの観点から基本計画審議会に対する提案をとりまとめ
  - ③ 今回、最終報告を行い、若者ならではの観点を基本計画審議会の議論に盛り込んでいただきたい。
-

## 2 第3回世界アーティストサミットとの連携

- ・6人の若手アーティストが京都を散策  
⇒京都の強みを発見する



## 2 第3回世界アーティストサミットとの連携

---

- ・多様な観点から、「京都の強み」を発見
- 過去(伝統の保全)...kyoto designの保全・発信  
現在(環境問題)...匂い観光, 水を飲めるまち  
未来(人口問題)...イスラエル方式・スリランカ方式



# 3 審議レポートの発行

～10年後の自分と、京都のまちの、ミライとモンダイを考える～

- 若者の視点で審議会をレポート

⇒ 融合委員会，各部会を取材しています！

- Web上で随時発信

10年後の自分と、京都のまちの、ミライとモンダイを考える。  
京都市基本計画審議会

傍聴記 vol.1

1071年 徳川幕府の  
2022年 令和3年以降  
京都府の合併後、  
平野町門前町を2025年以降の  
10年、2037年以降の10年以降  
の合併、京都府を2037年以降  
以降

レポーター 嶋山大輔さん

第1回総会  
議題：この審議会の概要

「10年後の自分と、京都のまちの、ミライとモンダイを考える。」  
のテーマが、このレポートの  
審議会の概要を伝えています。

**Q1. この審議会は、なんのための会？**

**A1.**  
京都市の今後10年について、何を目標とするか、どう進むのかという、文字通り、京都市の今後10年を決める上での基礎となる方針（＝京都市基本計画）を検討する会議です。門川市長が目標とされている、市民と市議員の徹底した参加による共汗で作り上げていくもので、老若男女、様々な分野から、第一線で活躍の皆様が参加されています。

**Q2. どんな人が、どんな話を話し合うの？**

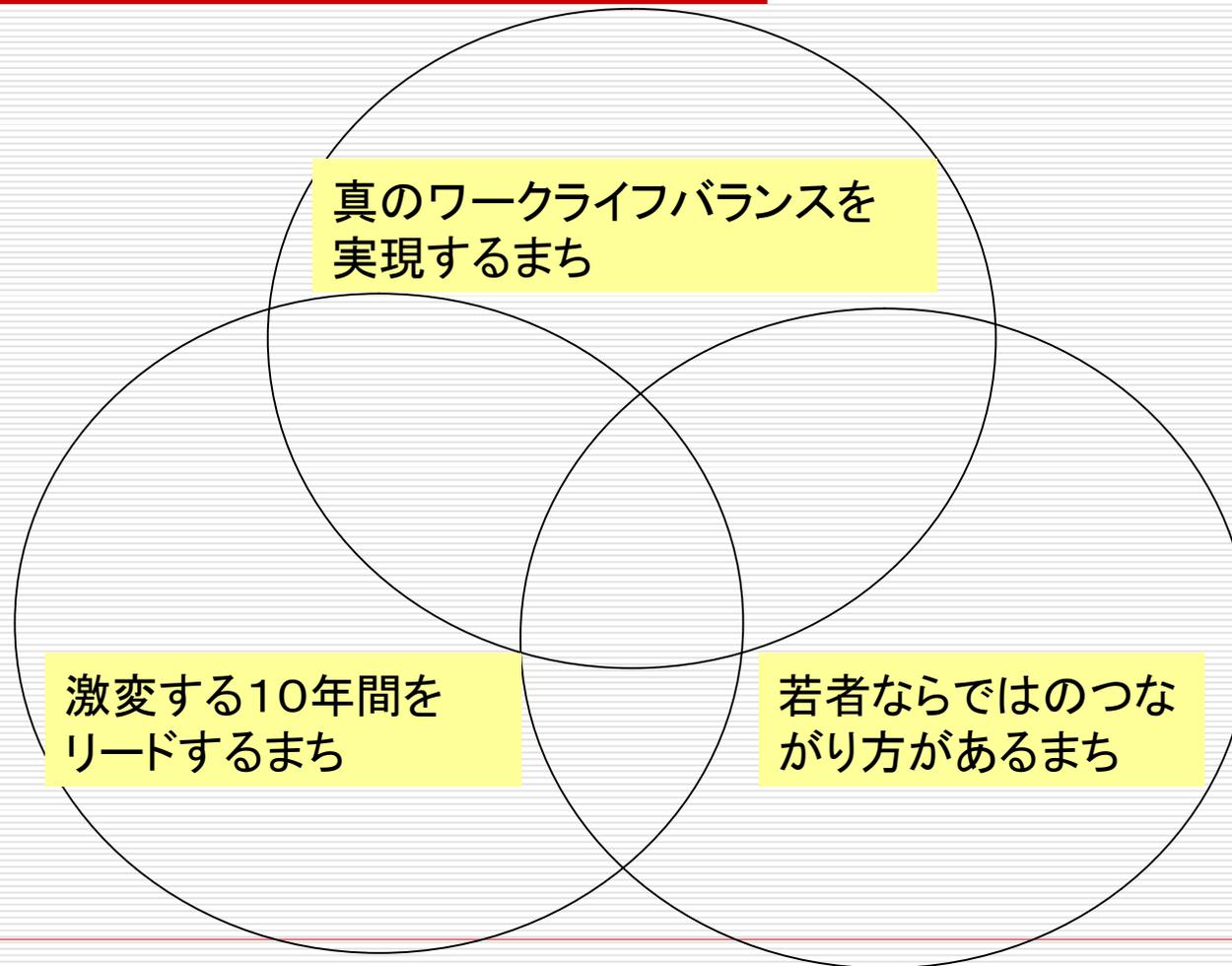
**A2.**  
各分野で活躍されている専門家の方々や市民から公募で選ばれた方などが審議に参加されます。その方たちが分野ごとの以下の4つの部会と分野横断的な「融合委員会」に分かれて議論します。  
・「うるおい部会」：文化・環境・市民生活分野など  
・「活性化部会」：産業・観光・行政経営分野など  
・「すこやか部会」：福祉・保健・教育分野など  
・「まちづくり部会」：都市計画・住環境・都市連携分野など

**Q3. 京都市民の暮らしとどう関わり合うの？**

**A3.**  
計画については、まず第1次の計画案を出します。それに対してパブリックコメント（パブコメ）を行い、市民の方々のご意見を伺います。これをもとに第2次の計画案を提出し、再びパブコメを行った後、最終的に審議会が基本計画の審議を行います。市民生活に密着したよりよい計画にするために、パブコメや会議開催などを通じ積極的な参加が望まれます。  
※注1 パブリックコメント→行政が計画や条例などを決定するときに、広く市民（パブリック）の意見や情報を求める手続のこと。

## 4 提案の3つのテーマ

---



## 《未来像1》

### 真のワークライフバランスを実現するまち

---

- 『仕事』, 『家庭』, 『社会貢献』の3つを充実させる人を『一流の社会人』と考える真のワークライフバランス推進都市
  - 女性が結婚, 妊娠, 出産といったライフイベントに捉われることなく女性の視点や能力を活かし活躍できる場やサポートのあるまち
-

## 《未来像2》

### 若者ならではのつながり方があるまち①

---

(交流の観点から…)

- みんなが無理なくすこしだけ努力することで  
つくりあげる京都
  - 交流人口160万人！多様な住まい手が交  
流することで永住を促進！
  - 京都に魅力を感じる若者らの生活に伝統  
産業や伝統文化が根付き、職業としても選  
択可能で、世代交代により活性化するまち
-

## 《未来像2》

### 若者ならではのつながり方があるまち②

---

(担い手の観点から…)

- ・ 市民の声が市政を形成！「わがまち」の未来の担い手として市政に参加！
  - ・ 市役所がまちのリーダー育成所として機能するまち
  - ・ 未来型の番組の仕組みが機能し、町衆力とまちのアイデンティティが向上していくまち
-

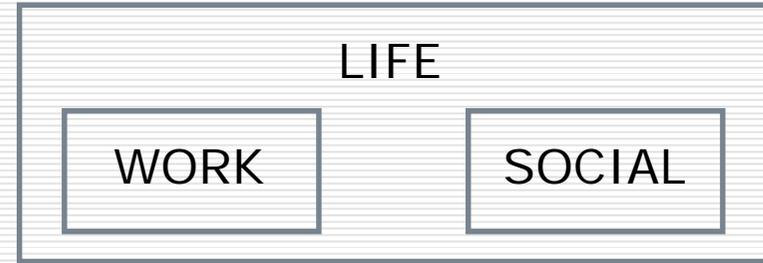
## 《未来像3》

### 激変する10年間でリードするまち

---

- 超高齢社会において、好奇心旺盛な高齢者の活動意欲を満たす、自由にエキサイティングなまち
  - 交通・環境問題を解決する安心な観光ツールである「パーソナルモビリティ」が発達し、世界に発信するまち
-

# 《重点戦略1》 真のWLB実現戦略



- ・ 伝統産業の活性化が、後継者問題、女性の社会進出、福祉問題を一挙に解決する融合施策  
⇒ 和のF1チーム(和の産業・文化に充実する若手職人や次期家元等)が新たな京都ブランド創造に取り組む。
- ・ ハロー・ライフ  
市が運営し、仕事・家庭・社会をマネジメントしてくれるワンストップサービスの機関を設置する。

## 《重点戦略2》

### リゾーム(根状)・ソーシャル・キャピタル戦略

---

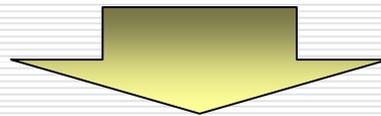
- 「1%運動」の推進
    - ⇒リーディング・プロジェクトとして、観光に関連する社寺仏閣、料亭、ホテル等が売り上げの1%を景観保全に活用するなどの取組を勝手連的に実施
  - 学生からなるコーディネート集団「リゾーム」とメッセンジャリングシンクタンク「京都都市政策研究所」による新たな市政参加の仕組み
-



## 5 今後の「未来の担い手・若者会議U35」の活動

---

- 京都市基本計画審議会における議論を市民に伝え、対話するための活動
- 若者会議からの提案を具体化させる活動



- 審議会レポートの発行
  - パブリックコメント
  - シンポジウムなど、市民との対話
-

年をとるほど素晴らしくなる、人生のための情報誌

# Grand Leaf

[グラン・リーフ]



娘夫婦はまたもやデート。  
預けられた子どもを連れて行く先は  
いつも近所の公園じゃ、ジジババも飽きる！  
たまには思い出に残るところへ連れて行きたい。  
孫とおでかけ、京都で人気のスポット15選

special edition

孫と行きたい  
春のおでかけ

- | interview | 脳科学おばあちゃん〇〇カヨ子
- | 楽しい熟年就活 | 伝統工芸手仕事内職カタログ
- | 中年デジタル講座 | 要らないものを、ヤフオクで売ってみよう！
- | 旅行記 | アラスカでオーロラ探訪記
- | 低カロリー酒場 | 魚と豆腐の店 [割烹 平岡]

## 編集方針

今までの50代～60代ターゲットの雑誌は、高級志向一辺倒で、ステイタスを重視する一部の人のための情報に偏りがち。

『グラン・リーフ』は地元の雑誌『Leaf』から派生した、ハイエイジのための新しい情報誌です。

地元誌ならではの身近な事象を、自然と季節のうつろいを、周りのと一緒に楽しみ、絆を深めるための街の情報。

また世の中で流行っているトレンドのうち、抑えておきたい有意義な情報をより分けて発信。

特集では好奇心をくすぐるクリエイティブなコンテンツを揃え、ローカルコラムではイベントやコミュニティ、家族自慢の投稿など、話題のきっかけとなるような等身大のネタもバランスよく掲載。

高齢者をマチュア（＝成熟）と考え、「年を取った人間」という考えから「より人生に成熟した人間」としてもっとポジティブに世の中に関わってほしい。そんな人のお役に立てるような情報誌でありたいと願っています。